



寶曆除元集
乾坤

^ 5
1197
2





春興

東氏

丙子

若昔也

長江一水

驚舟行上



竹深

青一水

巴柳

青陽 古今集巻之八

蓬萊や久し鶴は舞交

硯壽亭
西堂

下馬おそひし裾ゆた山

蛭牙奇
羅江

板敷井もぬる湯争波

風狀

晩年

石水もまのふ髪と末洗ひ

祝壽亭

追加

東の山乃ひまはつる日や

風雲井
風狀

歳旦



世三とをあり山陰北陸
乃亦ありしり音ありしを
古々あねの音とむしり

東武

ありしや
巴柳

田女すまゐく
妙見出

菜葉

掃除しそるの音

全
詩也 掃除の音

松切西宮連中

年 始



く川宮也

梅の風 羅柳

扇くら白

年 末

行年や糸糸探る福むらへ

年 内 之 春

氷割るころの燈や祀わす

全

陸子海やけて陽は赤師走 陸良

果 暮

穢さそせりや年終

蝶使

年 内 之 春

中洲宮あや年のちりひ棚

を長かたりて替る春を丈 蒼波

年 暮

かりふ日の日又月降りき

歳 旦

彼中雲山

若羅園

大把小鶴の法翼 滂蓋平 獨島

古 歳

仍年や独子小ねと二人の

あく奉侍り仍てお前 甚嘉と合

歳旦

携劬明石

皆言士と

箭世

成るハ眼もく先か

年内立春

幼若葉摘んでをる也年の結 全

え 日

ち名花のちの境やけと水 風子

菜 暮

師を梅七津の淀を男く那 全

智と常 但劬多世

祇多世

え日や夜代はさ目のか引あり 壺下

年内立春

月を若草山の節日く那 全

依劬麻回連中

歳旦

三友秋

天出と空もこの御代のは 不有

日本の様ひけしめ回化 南耕

花の咲時の力ハあつけて 知友

其二

岩風今

うはゆりえ遠葉や聲のあま士 松友

吉儀の製汁目の威儀とく春 知友

ち筆を雀を野もふ西せて 梅條

其三

遊観今

春ひさしう若くや福あ羊 梅條

卯日のおよ笑ひ出さ山 予者

解の歩も其水ハ氷もく 田耕



其四

鶴安軒

試る官毛長——如合衆 紅友

居る候の言ももろぬをの葉 梅條

雜念上下一付小居並して 松友

そふ

富月亭

福縁の頭短——初日氣 陶耕

あの方より小伸も鼻懸 松友

猫の言は難きより目やまを 不首

年内まき

花の言ふ使の中は九年の事 陶耕

来てのゆや春の備君一葉 紅友

言ひ痛かりて表の位指し 梅條

身も頼み親仁よりぬ三月月 松友

十日満て去の跡もあふ 不首

歳暮

穂と穂で漕ぎ渡りや寶船 梅條

世と世をゆい打てん陸候の境 紅友

世は丸うしし船と舟人大三十日 松友

美らおさし暦を敷の年くら 陶耕

あまの夜更至の日も今年十日 不首

元旦 佐助下方

有法居

助ゆやまより配く治世男 庭村

年尾

川浪や月もまは流るる明り 全

若葉の言ももろぬをの葉

血知と雪よりあまの夜更 松友

智節 世所之世

穴冠斗冠年冠の穴年人冠と曲て世を
神代志事とたのむ

君風節

たのむの 其仲ふ 初日く水 羊鈴

除夜

遠くよりいふ世の来り 今

歳旦 舟波保津

糸もたふ成そ屋うらひ初ふ 不織

采葉

高のうらふ針 今

采葉

書筋もあうら春うら名札 鬼虎

羊尾

ぬ糸も虎もいそく膝走ふ 今



横波

高松

連中

歳旦

其余り 軽も喉ふ初音く水 青史

新初令

改旦

清め代の奥と為る初旦ハ 儿北
氷の氣もたつやをいふ初旦 青邑
痛は定りて矣世起る大旦 柳儿

辛梢

竹やかやまをぬかす辛梢ハ 青支
温風の音を鈴やまの草 儿北
福の名と信ふま物と白尾の豆 青邑
旅りやまのふ路や青支ハ 柳儿

歳旦

花のほも梅とさし朝ハ 起友
初空や尾川もやう初年の声 昔教

兼晚

兼晚はあまさらりう人年籠 起友
お二重の上も青あり年籠の信 昔教

新年

四つのお水おの春の 花の春 柳志
暖かきやまゆりし松 翠羽
春の音も尾川もやうく啼りて 古邑

其二

ふ力雄の形もやう初旦ハ 古邑
洗身浴ふ遠きあか山 柳志
うけくさ鶴の産卵も重りて 翠羽

其三

元日やあまのあか初旦 翠羽
初目たつと福草の庭 古邑
甚一子の居る川水流ひの 柳志

兼早

恵方より梅や心は年籠り 柳志
佛代はあまの年籠の年籠 古邑
年の神代はあまの解のあま 翠羽

元旦

身かき旗と上ケり鳥 和友

年未

飯傍山の音事も年の尾花 全

初鶴や吹ぬ風く空は空 素月

山雲や浪連つ船と琴の糸 故山

雛鶴や水ひの影くも川旭 素祐

三吉野と柳小借も年の縁 素祐

よりの波の風ふ深ありまの音 故山

解る花のさうりハ限り有り 素月

知り常

空閑て年のはゆも素祐 菊洲

長生や世く愛時の子ら春 若洲

岸も花の中まゝ花助津樂 随子

歳尾

綻め素花賦ややりの衣 菊洲

春の介子言や梅の花 若洲

解つるの音やいそも年花 随子

歳始

雪も晴て時逢はる湯代の春 素祐

古生の山と旅の目も初 南山

捨るよる土の春も初 文仲

層地 旅向ありそ

昔も山は目も年の花は 素祐

とや春のま葉をひは初 文仲

作すとも初より年のつ終 南山

元旦

先宿の初花も初 素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

素祐

歳旦

月花の

なごめ

今日と

しゆみ

空

年尾

年の宵

枝よも

星の

あかり



柳花堂
宝島

歳旦

殿取巻の

落し

種子分

福

州

除夜

あふる三声ハ

まー年ねと

百文亭

楚山



鶴且



ゆいりやかき入合
三の胡

菜末

迎
お代や二つと
年の板

雲雲堂
蓬山

絨筆

海音全

隆子

初空也

船入

海

花の

石

ち歳

智茂川や

なす

年の矢ハ

やまらぬ



歳旦

仙果軒

唐子墨梅かびむや初朝 粧園

年尾

賣唐小豆せり新の松の夜 全

三朝

うさりの正月も衣やうそ物 鴛帆

歳晚

偲くぬ一唐きりや年の関 全

歳旦



蟹斗のさ

今樞園 羅俊

菜考

考六つとり目くり大三十日 全

あまのりりんねと癖

あまのりりんねと癖

あまのりりんねと癖

あまのりりんねと癖

あまのりりんねと癖

あまのりりんねと癖

あまのりりんねと癖

あまのりりんねと癖

あまのりりんねと癖

神と君のりはや

深き山かみ雲

漢陽山崎五文梅を何

書林野回夜八旬版して初らるる

より合巻名のあまを深きり風状

鷗旦

漢苑詩回

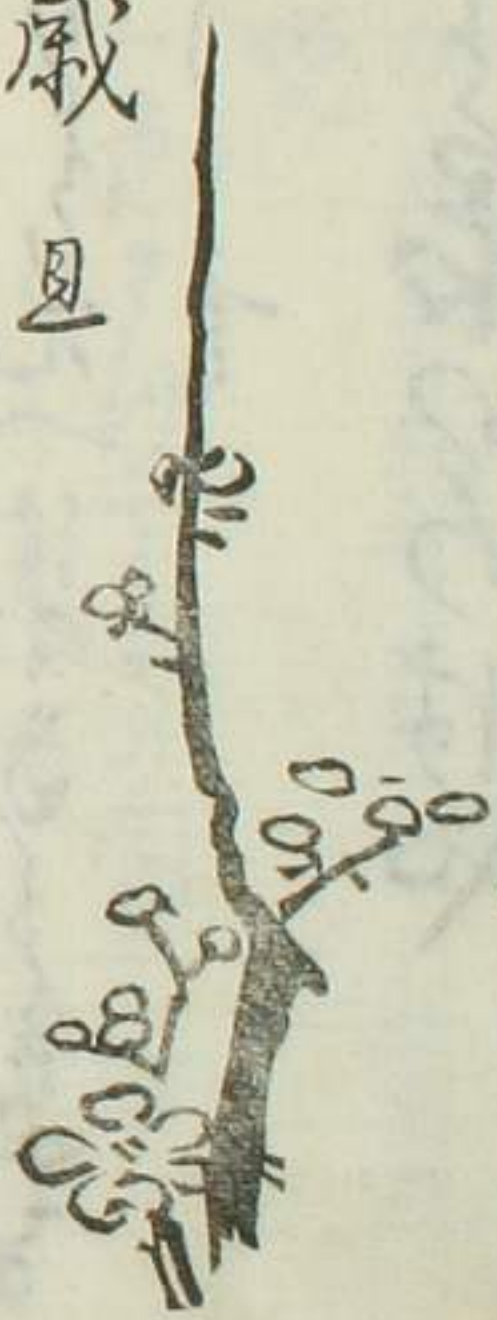
元日や唐人少若法人 文江

立春者立暉

杜子英の一白とらて

りらつみや丁丁とて春の山 全

歳旦



つらぬぬ氷解子より初日影

よしの日は思へも存長あゝ空

春風をけしこふよき雪雀すべ

兼子言

甲子うらな居その流や辛名川

右宮幸西湖言語那古賀 湖泉

石筋水系連中

歳旦

兼子言

年と海心針や初日の松 兼蘭

闇の幕引け初日の舞臺の如掃

七福の舎あかりたりと網の巻 兼啼

初春の外と云々一三ツの網 兼奇

音のたもて夏よ切しく初日風 一聲

氣も世界度さくを人初日風 治水

まの葉は海より廣く春 儉海

先日や程思のあるも力雄 浩海

年と三ツの初日や明を春 波雲

兼蘭

あつくと海心一 兼子言

兼蘭

百十二

清の徳ハ引て情々や暮るも此 儉孟
師乞能やんの鼓のより不 ぬ奇
こりり引、柳の庭也年の昔 少掃
年の庵や山寶の船も大漆 常啼
身を撫も昔の一寸病ハあつとふ 治め
あつとも知つて甘より身は帯 一声
ちいさり音不敵あゝ深夜の鐘 泣氷
鶴もそそ昔のあつりゆまの方 涙雲

歳旦

歳旦もあつり、いさそゆの虫 世子
年暮る、まつ山宝やあけはれ 百合
老せは、まもやも昔の花の春 英風

年尾

余日とも書く、年暮る、世子

子た世の起ぬも長一廿十日 百合
満つり、年の家も、寶船 英風

石叻市山連中

歳序

え日ハ照陰も小清き、那一草 何酒亭
花も実も昔、腹も有、咽の春 一瓢 雲新亭
寶川の流や長後、常流亭 風虎 吸風亭
初長やんの花ハもや、飲露
初日新、市と向ハ日、天氷 松福亭
七福の暇、屋より、傍、暮、青々

百廿三

一年の巻頭や弓くしめ 紫哉

去年隆り一書や今年はつらみの 牛子院 か年

鶴小序切ききくや海ゆ か年 文声

年玉の光も國の標うか 玉壺

百年の鏡と磨くや今朝の春 温故

吾の戸に一ッ拍子や花ゆらぎ 柳糸

一年の清物や真方棚 以餘

孫の尻尾上と祖父の心書 如斯

芳みの細好物も水も 芦鶴今 文波



年杣

鶉の足冷——大三十日 文波

四海も小秋葉や年にも終 如斯

帳面も都を留すや陰夜の清 以餘

あらしの帯と手紙と年籠り 柳糸

えんの機嫌や厄拂い 温故
 うつくしきけのめき 師走の 玉童
 餅搗の青小芽の出る白髪は 文声
 春と待つ心も惜し一年経ず 雪渡
 空の舟も着と謙や登所泊 雲分
 春梅も木の枝や明隣 青々
 年経るも好て佳自の寝むは 天水
 らう那んちん曇 蝶拂 飲露
 新雪やいそぐぬ坂の跡をく 風虎
 早梅ハ草木の花のしじふ 一瓢
 追風の鼻息も一寶船 一草

石劬河本連中

歳旦

丁久并

福藎や身を運一ト下澄延 蘭渚
 朝の葉肉ふもくも万葉 志行
 波崎はんちの春の跡矣を 駐車

三三

成要令

水やせぬらん花の且く那 志程
 海の白ひも情遠 葉 弱車
 船塞小舟も二枚擲出 常法

三三

白雲堂

海竿の垂るし柳代や若草ひあ 駐車
 海連はあまのり掛 朝の露 蘭渚
 三月の山ぶの火 勢斗も 志程

百廿二

歳旦

まるくしと清代の家や初日新
 扇之
 目出さの春を觸る也鶴居
 緑枝
 書袖不用る筆也果毅の
 灼月
 家くふ笑と接と也初日新
 待々
 我経工を若世ぬみ也三の朝
 如流
 万歳也九やうもお知し入
 毎柳
 あいあいの子守りも福也茶
 虚嵐
 芝莞爾と加ふ我も仰をふ
 桂河
 竹堂の舞多に春の姿も
 林風
 空方山の笑ひはけり也花の兒
 一風
 細柳も位のあゝ今朝也飾蒙
 如蕙

歳暮

春のやで雪解もあゝと年終り
 志程

一年のふれ觸る也清夜の清
 如流
 舞のふさきもやのたうも
 待々
 糸経るくとと年も若ぬ衆門
 扇之
 降りてあて内のぬくも也冬籠
 函柳
 吾も代々もあがり年終り
 灼月
 け年の向心借し也雪の清
 虚嵐
 年の尾と巻上りも清の声
 桂河
 沢山の雪もと士存也雪木樵
 如蕙
 世とあくつたの花も年門も
 弱車
 誇りも家もほくも年籠
 緑枝
 嘘くも心もさうも掃拂
 一風
 年毎ふめり房も也事始
 林風
 年の尾や海もも梅も丸額
 蘭渚

此加春無
 柱号くぬ雪も
 春身
 風状

果 且 石筋三系

推子の智恵の流子や初日新 花隣

年尾

世と信ふ胸の流るや年流る 全

改 且 石筋西田

又老軒

惑りば年流るふの音書 拙照

除夕

向ひもあや音の三十九や
あの花をあるのうらや

花の流るあはれり陰夜の境 全

試毫

石筋井田

晴光樓

初空や花の氣を流るる下 巴江

年尾

氷の流るあはれり春の揚屋 全

歳 且 石筋浪山

柳系別

又一つ老るる年ハ若葉くる 甚か

果書

老後の的とららん大三十日 全

元

且 石筋家下町

結風堂

年の流るあはれり花の隣入り 始鳴

元見や世を流るあはれり顔 思母

年尾

流るあはれり月日の流るや年の音 始鳴

鷗 明

石筋大森

綿後堂

名流るあはれり初日若氷大や海 分友

年梢

以年の流るあはれり先聲の音 全

才 無

月と日の流るあはれり夕暮る 全

歳旦 石筋大森

艸考后

年くの子打りや福あそび 加風

早稲

年の瀬の流るる音や音あそび 全

改旦 同所

あふり先頃と海と初日ふ 啓子

早稲

即ちせのまのころや大三十日 全

年内立基

関吉のゆらぎ春あけ後ろ 全

あの子

まの神ふのまき指す神月 全

聖節 石筋吾郎

天の江やゆて七ツの初曆 琴島

年尾

あふり先頃と海と初日ふ 啓子

三娘 石筋大浦

あ三翁

鶴舟も遠葉ふ出て清きる 石筋

年杪

暮らしてかき一日の満大三十日 全

三朝 同所

あ三翁

帛より梅の虫出さる川目ふ 外寛

年杪

殊掃は掃き面の咲散る 全

聖節 石筋大浦

あ三翁

姉奴夏のそく心の神目ふ 如風

除夜

年の尾あふり清せたり除夜の鐘 全

あふり之吟

十あ盤あふり音あやれ 全

百廿九

改 旦 石加温泉跡

渭溪今

の根や第自らも三つの綱 仙桂

某末

知しく参りしる層が 全

石加大國連中

歳 旦

磁体堂

年中の心不欲しと神目か 補拙

今朝定く世の勢ひや梅の光 江稿

花よふ欲も出せり明の曇 積水

年と春と目のうきぬを委 清五

代く申書のそせぬ梅のほろひ 敬忠

内雲よはるいふ雲の移ひけ 積少

是との老忘れ 神日くか 蒼谷

まろく年のち春や福あ草

洞庭

初日新能代の花のまろくか 蒼谷

雲竹よ梅の勇氣や三の朝 楚江

今朝の春をまろくぬんか 樵溪

某末

雲居唐

富士とて人論する夜あり寶船 積少

惟廣もかきせにまろく初日 補拙

年もも積少をまろく大三十日 積少

後し雪声も初くや年の川 楚江

合のの 某末もあや大三十日 敬忠

雪梅や着後弟のちまろく 樵溪

市人よまろく 某末も年の積 蒼谷

おのつら雲とまろくり年と雪 蒼谷

一 披ふ世男と積や陰夜の川 洞庭

年内立春

雲樹室

かりんや雪のまろく花のまろく 江稿

春真

雪や秋遊の世と梅の花

浦柱

水、瀬人の心の梅の花

江橋

福の御守もあし梅の花

積水

え且 伊勢久居

逢洋、神の苗場や伊勢の草

砂丈

兼尾

大年や嵐も一夜静ころ

空

歳且 伊勢無山

若水と沼や齡のよりよき

楓溪

兼尾

閑のほめゆきとゆきや年の暮

全

伊勢

兼尾

連中

歳且



延年翁

角文字や年の額の花名紙

花御

夜の價持もぬるしの幼日か

燕尾

遠葉の葉内や油老の猪田丸

た板

乾押の心も重しころ日影

志風

兼尾

牛の御守も春の百子身

花心

元日 伊勢神戸石紫

慈母八十六の寿

初。歳了るるの家 チエボトリ 変慈

除夜

おと牛もよもよと出りや
ま〜一招

大こく

八重垣の玉枝 子出抄 孝始

直心と

非代の浦の世々うら〜
ま〜鯉

壽左又

助うろ名とま〜と玉椿

歳旦

破魔

おらハ

代

の

目哉

象暮

新宅よ

古しの

付くや

煉 ま〜い



随功令

楚人鷹

百三



歳旦

式子百拾七年目
浄代春
危御

巴雲三

歳暮

彼屋より
大三十日
全

歳旦 停勢持崎

あけの
年の春や
未開紅
唯竟

三方の
初日の
日五廿
徒野

櫻や
初日の
同堂若書
歳測

せのほ
遠き
改新

お出され
西宮
年の鬼
改新

歳旦 伊勢三重郡山田

不易の坊主天宮と今胡姥也 休石

今 同國下久保

袴着て横もなるや飾葦 寸口

活華てもまをを以てかたり漁老 暇耕

浄代の看能代ハ藤之門かたり 啓測

去年小ま春あれん

後小春春さふこ子流た而月 雲和

采書

音季采ちと船送三より 体石

半おらじ雲流の竹や蝶拂 寸口

籠り流小岩戸や陰夜のたふと 鶴耕

空く氷解る音まり陰夜の澄 啓測

書 采書

鶯の鳴きと歌て是凡之那 雲和

播助言砂連中



年内立春

臘月やあ今年一流ま智 通院

年 書

誰り年とま月を一石也 成功

年の垣松かりより建仁寺 春房

年尾

水と鬼追ふ声人の寝る那 通池

ま著を騰

均之改
并涼に

く少春と夕人の月さえまより 草香

春無 夜思梅

梅の鳥とたりく小すく夜

雲の音

全

野梅

馬の喚びと 穀かけや結花

冬防

年尾

枯木のふりつて 春待初雪のし

全

年未

留春秋

玉杯小溜さうとく厄拂ひ 自得



歳旦

若水やかけひの

音ハ弟ニ申

東武

源造卿

冬々々 全

冬々々 鴨の踏て行 揚拍



歳旦

播磨今市



雲を吹く 幼日影 氷着後一

冬々々

冬々々 揚拍 全

春鳥

昔々世のさねの裏半院 宛沈

歳旦 日一掃 筋也

名教亭

の如きハ昔ハ不詳ニシテ 孤桐

除夜

痛て得る者ハあつたや年境 全

元旦 攝勅依保社

肥田氏

宵の鬼月代青一年男 菊母

年尾

昔々世のさねの裏半院 宛沈



歳旦

幼老

伴藤吉田

海を代見 定雄

海の袖日影

集 義母

全

日女日の壯々

昔々世のさねの裏半院 宛沈

日向清武連中

歳旦

梅も著ふえり明烏 流水
新玉もつらふ春むねのさる 為林
まよひぬらふおろくせの世 治の

辛尾

延て日向御舞ふる年吉良 流あり
さうくと流きて申一年の味 為林
年の後歳はあかりあふ月 治水

辛丑



子喉八年や流く流く下 吳津丸
あまの流

かきつり 馬を 追ひぬ 時色 全

渡石丸龜連中

歳旦

挨拶と松ふさせり夜の長 其搦
仙樹彦

辛寅

おろくあし日もつらふ 全
師走の

改旦

七宝貝の如く貴く玉の世 岐川
三十一の巻
神事

八重かきや八重垣つらふ 百人
兼尾

加島てけ言と野乞の草鞋外 岐川
鏡もあまり神有 陰夜の園 百人

元旦

能事改
指景庵

松原小笠原の浦やうの朝日 晴夜

臘尾

号作のまゝ法しるや年の宿 全

元旦節

連抄全

大あしやまのうゝにち常盤の 麦人

新井屋や程若水のころり知射軒 為賀

口衆口衆

年の隙も通て 常盤の海流の 麦人

おとりぬけりありまの朝 西資

歳旦

漫加丸持有り 京

ころりころり牛馬の朝はまじり 山

果考

何方も足かき年の外房の 全

春 無

漫加丸持

知射軒

まじり二首も成れん声のふ 為賀

鵜 旦

漫加丸持

披書樓

かたり油老や遠葉山の立回船 風知

幾くく身腹は好ゆり今

か久層あふ古脚 弄舞の

山くま登る者調や節の風 鬼聲

山姥やあやと仔子の幼化粧 道貫

少るあは梅くら明一星結朝高形 舞龍

層 袖

賣突突ふもふ花の名や家の市 舞龍

限りふり年法尾高雲の衣代 乃美

吟ふ人音の思橋の菜ちり月 鬼声

越女一火煙を老の年の坂 風知

あき吟 後岐も雲

今時局

らく半中もやととくや

鳥の跡

亜柳

其奥の

ついでと月と指も梅の花

全

歳 旦 伊豫守朝鶴津庄

智るぬや先佐保姫の

融ち産

文介

年尾

因所

光陰の菊のありや年結飾焚り 川西

解るぬはま流燭言あはる 文介

鶴 旦 伊勢松岡川

射巻鼓

ほろき物なるき始や 初日空 泰川

兼 暮

金多限より 回を限る

思見く那

全

歳 旦 伊勢四日市

空までもの 先旅や初夜 唐石

一文字の小口より 初日新 紙厚

ち 歳

赤く年の暮渡やす 拂ひ 唐石

改 旦 因所

子梅全

初日懸國の指や 大和ふ 丁毫

歳 旦 佐前畠山

化よ出る 初もあふん花の暮 唐石

旅人も我もふり 羽の暮 巴江

かのくと 誇るも 佐前畠山 膳山

歳首

椋桐ゆり只かしくと 歳首ぬ 晴山

台陸に降を断りて宿居る 巴江

年浪や梢のすくすく沖の石 尾巻

三朝 徳お墨山

うらうらと山天宮お初水 風荷

ち 歳

ゆらゆらり年の梢の風の音 全

新 年 徳後府中 夏西全

鶴の音ききより四て年代の巻 東安

年神

年の尾や外も足か金捨車 全

鶴 且 渡波を友

勇しく言葉の細く初日く那 百尺

ち 歳

さか 如春と打出と鬼の足 全

奥辰洋燈弘お連中

歳 且

楓葉居

初日くか三子余里の語出立 芦瀬

ろくせぬ一花切らく包井 蒲江

山吹と見んせ一若返後高ぬん 世南橋

其の二

鳥中郎

美園お答んか分一福寿州 世南橋

懐かぬ是て素一春駒 世南橋

永日も美居歌ぬ身も如や 世南橋

其の三

十知亭

那雪の名もあかりとて 蒲江

柳の酒一遠来名尉 世南橋

一目八海と桃の世男あそ 世南橋

菜菔



けふも夏の瀬かき一年終り 蒲橋

歳軸

海山の真鏡之や師を市 蒲橋
年川に波より春の賀の浦 蒲江

歳旦

東海史

穂俵の馬髪もくく 環餅 巴光
七福神の付さくハ居候 蒲橋
帆と袖の船と燈舟ハ揚ゆ 蒲川

二

松柏堂
文芸改

三五も同一白ひそ花の巻 蒲川
日の陽神ら雲をく曙 巴光
家持の巻の節を編む 蒲橋

其三

夕暮居
繪更改

ふとふとわけて居る 神鏡 蒲橋
おちも推くて 蒲川
池水の柳と翠草ひて 巴光

菜菔

塙鶴の庵下も見ん 年々き 蒲橋
春後屋の物も娘や衣配り 蒲川
清もくつ開かて角出と春の音 巴光

歳旦

世帯軒

風雪の巻も抱ふり 蒲橋
湯代の巻 世帯軒

菜菔

笑ひし松も巻ん 節の船 全

歳旦

奥加津怪青森

ゆりゆり
ちぢりゆりゆり
日の傍 勇石

まじりゆりゆり
ゆりゆり
今

うその終り
ゆりゆり
今

茶尾



蝶拂や中屋さ

出羽の舞臺より

今

智と節



奥加津怪青森

汲上—水小笑初や年男 蘭西

三男と越一始や飾鯛 音戸

賑々

見納め帳小注連張年の暮 常西

年内と暮

梅と鳥を抱てあそぶ師乞ひ 音戸

出羽秋田久保田連中

聖節

十二月^廿子夜^中や歳を^種神
神日の^観く門の^三寸陶
押付る^宮と^若葉と^くりそ
風状

具川

元日の^鼻いふ^ふぬ山^夢水
皆人の^鷲鶴^尾や^やくこの^春看山
東雲や^くり^と神代^の神^飾 ^湖舞
戸隠の^すり^心や^く湖の^意
舟車^の小^柄や^障神^日彩
持の名も^き候^白今^朝若^さ去
枝^くく^く海^の年^や花^の明
先^陰小^器用^りの^有ち^節月
赤^福の人^貴く^く川^日彩
如^翠 馬^送

春奥振題

雪^のや^解小^又りの^入時^分 本^河
白^のや^波の^味春^小ま^まの^香 如^翠
人^乃の^骨は^くく^く梅^の花^の色
く^くく^くや^我中^村の^女の^文 看^山
持^てて^を根^こく^くく^く 里^石
揚^てて^を根^こく^くく^く 湖^舞

歳暮

深^一夜^身小^すく^くく^く 氣^河
鬼^面ひ^出て^来く^く 看^山
舟^帆百^帆中^と盤^の白^雲不^不 湖^舞

辛尾

掛^乞八^年の^柳の^鐘の^声
傾^城も^實小^くく^く 幻^里
聖^の野^鳥吹^かけ^く 馬^送

琴の師の因今(近き)所をうね 梅里
持く教を梅や受取(除取)の持 如翠
龍門の智て居る(年)一夜 巨川
襟衣(と)月(を)て(其)侍(り)大根(を)分 里石
言(す)事(も)也(れ)り(分)ら(は)從(り)同(士)一(面)
大(思)も(依)か(さ)り(て)是(見)る(る) 看山

年(内)立(春) 尾河

歳(旦) 丹後(宮)津 菅(原)平
年の尾(は)見(る)少(く)り(明)老(山) 柳(紫)

長(無) 碧(水)金
中(り)好(ま)む(ま)り(三)つ(古)り(若)り 枯(芦)

冬(之)吐 洋(流)舟
東(東)東(東)東(東)東(東)東(東) 七(松)

柳(紫) 大(三)十(日)



聖(節) 白(品)馬(門)

初(年)也(寶)附(之)也(馬)牡(丹) 蓮(子)
國(心)結(河) 山(石)茶(林)

大(少)く(の)湯(氣)也(一)乃(志)為(翁) 櫻(戸)

年(尾)

永(く)と(は)也(際)一(氣)の(尾) 鶴(友)
折(浩)一(其)葉(首)也(日)敷(の)年(志) 蓮(子)
蝶(掃)也(枚)子(も)鳥(の)恒(の)之(記) 櫻(戸)

歳(旦) 櫻(花)金(品)羅

先(居)獲(不)汲(も)も(ら)ぬ(水)分 柏(山)
春(息) 同(國)西(川)津

の(ひ)ら(ら)い(る)花(の)葉(梅)の(花) 知(里)

年尾

今越るやりの十三峰の那 知里
やうほのそく年のころ新 杉山

藤助女十歳連中

歳旦

鳥まてき字をかふるあさるふ 花玉
そふあそと花吹雪をてあそふ 舒橋
幼空やあそふ一匙のゆい 佳夕
おしや松いたのふさふさうめ 里男

集末

まあるみのしや大三十日 花玉
世の中の浪のたふや大三十日 舒橋
はるあそと知ふあそふしよはる 佳夕

年抽

瓢箪で流流やけりる年の川 里男

藤助内之子連中

正月節

花も先々被汲や初あそふ 斗直
か後き一時々斗の玉の春 一洞
斗起て花も春あそふあそふの花 小梅
春も春も花もあそふあそふ 小梅
年の矢の若の酒や大旦 春鶴
春鶴の音もあそふ一三の朝 守梅

集末

藤掃やあそふあそふ大旦の 小梅
垢あそふて目もあそふあそふの川 小梅
角文字とんせえあそふあそふ 一洞
あそふあそふ

措は向ふ花やけはあそふ 春鶴

守梅

守梅やあそふあそふの袖香が 守梅

果書

叫きぬ滝の歌の意は流し 斗南

歳旦 且 丹波柳永 関巻全

波静沖小船中 今朝の暮 壺中
詩の句は沈もあふふ神目か 吉廟

果 晩

何もかも年と母宅の武家坊 壺中
大名もかたけり越えや年の川 吉廟

年内立基

室の香とのつるの梅の花 壺中

鶴 且 浪波津田

ち水の的さうこうぬら始 拉鬼

年 梢

配る日の衣や互ふ作違の花 全

勢加龜山連中

歳 旦

小夏亭

那那の枕を春や福寿草 素鱗

昔よりも強はれ 鳴戸 全

いふ年うまきも柳小笠をねて 全

鶴 且

年徳やせらう向ひても春芳柳 波状

年の灘離れて沙々の浜か 吐月

さうのゆめはさふ笑顔やなすけ集 赤定

年月日舎人と老や時の春 九淵

むめうまきもまふくも 鳴の基 鬼中

果 冬

多智もあはを履ては年一食の飯 波状

信修とくく都もせそ果もふ 吐月

琴の巻の盤ハ流也年の香 赤定

糸の着せたりももた師をみ 九則

解つことも多しやなに出る何の着 彪也

子もふりくも中余る如也 室家

果 号

りら花や挿ふもす寄りのも 全

改 旦 勢別を園と邑 和分堂

梅のきもをねてそ自も湖の巻 一英

くしのかく小窓の春をよみ来りや

いん又かくくくわのせしもも

又時ふひふふふの勢あつたり

けりしとそりありめさる替り

かきりゆふくと見せ

冬もくちらぐら(年表内) 全

え 旦 紀功安樂川 まき松軒

くしとねくしと 志の河 滝河

歳 旦 丹波成虫

元日の冬結月お持ふ人の郷 後月堂 赫里

書の中 勢初月人のまね 谷川 月歩

万物のうかきりや雪のま 細見 徐來

辛 尾

酒溢せ勢能くは舟年の舞 月步

近乃よ春侍宿の一、婦入 徐來

幾代神ぬ年のまきけみ出末 赫里

歳 旦 丹波成虫

大あくのたさりや家の初を 赤川

あつ玉の年のまきけみ 油厚

蓮葉の出店と家の松をり 子琴

百福や下は限る初を 清水

百福

百福

百福

百福

百福

歳書

まゝ鶏の眠りと年の仕舞ふ 赤川
思を耐逢の事しや帰拂 西原
世の業の種集らん大三千日 子琴
とく世の捨の具仕也や深夜の雪 澁原

若弱小漢連中

歳旦

春野雪

一年の運の二合もあはしき 五笠
年内五笠

春と今年はあまを桂馬鹿 全
茶 葵香

佐保船の待すりあはし 全
社系五柳と見えて

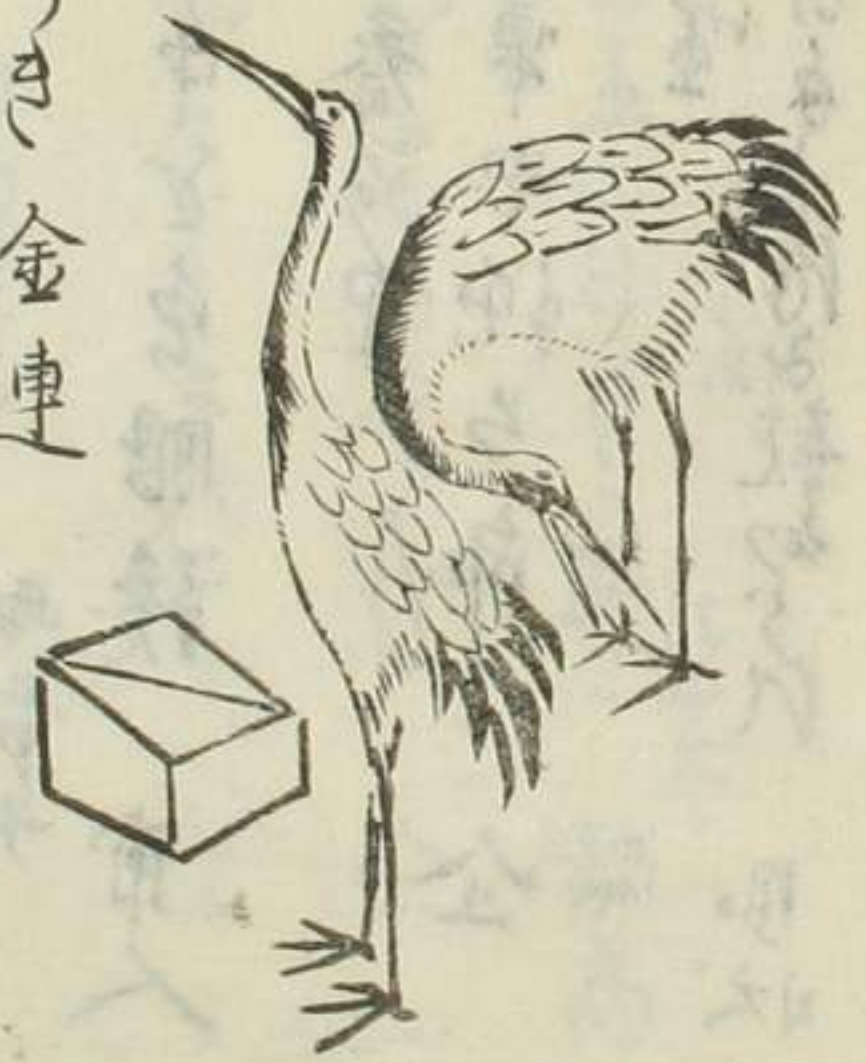
お舟の沖酒やあまを赤雲紅 全

歳旦

汲上て

四方

青あり



馬を頼むき 金連

歳書

長ずりも春越や師之坂 全

歳旦

ちり三官の

重像を好ゆりて

あなみ三ツの始やあまめ 約分

暮とや葉枯や根やて解の花 全

年内五春

お合て越えや曆を未だ云 全

歳旦

あまい

名小徳て世の志とや福寿草 叩端

辛酉之春

清遠一年の詩屋のあしと坐 叩塔

聖節 向崎臺

西白雲のそよ風を今期の春 芦舟

辛酉

張嶺とくに仕りて年や 釣瓶 全

歳旦 阜々臺

日への離れぬ水や流連飾 千河

せいの不

返くはのりーと年号ぬ 全

全 雨前抄

極月や一年中と虫眼鏡 南人

年内小春阿豆

乃た春い輩や純ち節 全

冬々々

多清や人のまへは親知らぬ 風状

歳旦 南都

松風と男出立の神日と那 清雲全 静高

あそ春草と雪の詩水 全

辛酉

思ひ路の花をよみて一年は春 全

歳旦 江島膳水

桃雛抄

伊勢海老の膳のちのちの節 一屋全 百人

けしんをぬけし春の拍子 月波全 百人

一統の言も花咲そめぬ 園人

采精

年越不慮方枕の亥子そよき 軍人

糸の子おこの春より大海日 願人

なまじりて春詩合も年のはら 百人

青陽 康武

横雲の空も霞斗鳥の袖日影 稚梅

辛尾

東原の年の暮や大三十日 全

元旦 但馬七味

廿三日小起て旅ぬや律代の表 安永

辛柳

子とて坐せし判かきつる年此年 全

改旦 蕨湯まじりし

仕云舟

ちとせ苗阿ハ長因そ明の暮 竹子

清風亭

年と奪ふは是も有りし年の暮 芦舟

辛指

河豚けや伊豆も盆のおおく甲良 芦舟

夜くや寶の船路表勢 作子

藤初別子洞山連中

歳旦



莞爾と年の暮や三茗朝 蛙泉

雲起堂

素顔て花も勝つハ門雲 全

家信の返手とあて申出碧りて 全

来君



伊勢海老の 助日結出 雪洞

福ひ延り

元旦



あけあけ
年法 春の
初 墨洞

改旦



牛起て世と 日の芽立一鳳
彩多々



節



花の樂奏一始や 桃之



音申
春と
乃ありや 神馬
今胡はま 枝風

孝の神 授ま 海の鏡立 嵐川



うね
のまの 福奇 柳流
見まあや

あゝの兒も昔に 福寿草 雀舌

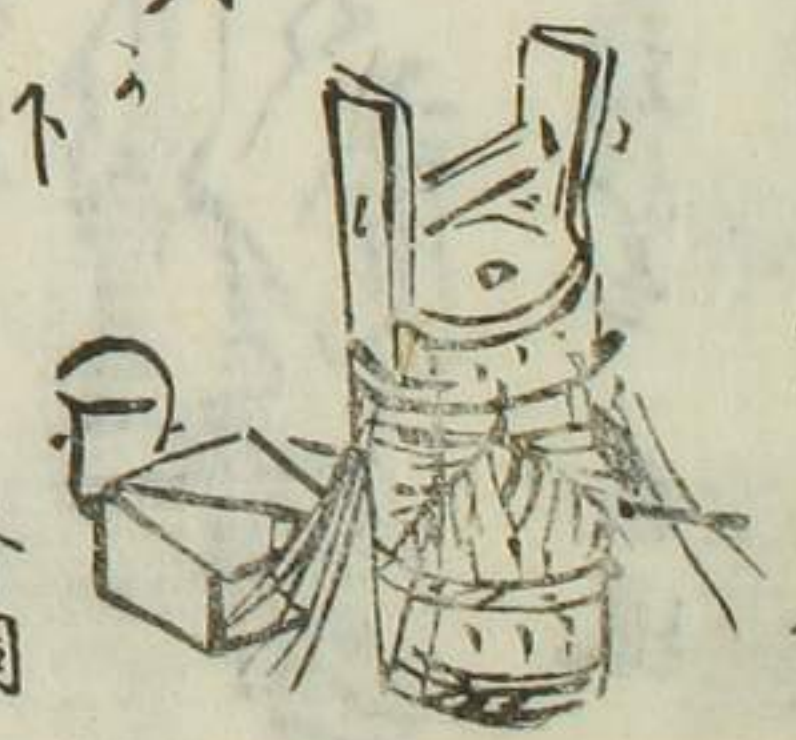
富士の眉

いづれを
そむる
あこりぬ 物嬌



波
そむ

か
せ
水や 天



春洞

菜 葵

あ抱て 幸さや 柳さか 春泉
遊人

是も昔又夜も昔 春の暮 春洞

蘇 湯や 皆一争の 春の 暮洞

床て 果報伊の 若も 春は 春 一風

床ぬ 夜も 模の 春屋所 概之

雪 積て 限度 輪や 春の 暮 春洞

閑 雪の 互も 春の 暮 春洞

昔 雪の 追之 惜り 大二十日 枕流

か 春 雪の 追之 惜り 大二十日 枕流

言も 十五夜 な 水

月も 春の 暮 福八内 助嬌

年内之春

蟹羹春酒肴くあつ津魚 桃之
りりるふあひまり金と花あり 嵐川
年の内ふともふあひるや寶船 枕流
松や春とあつしの四境 雲洞

歳旦

日ごとて祝するの
新年と連ふ

元日や之那

有とけふ

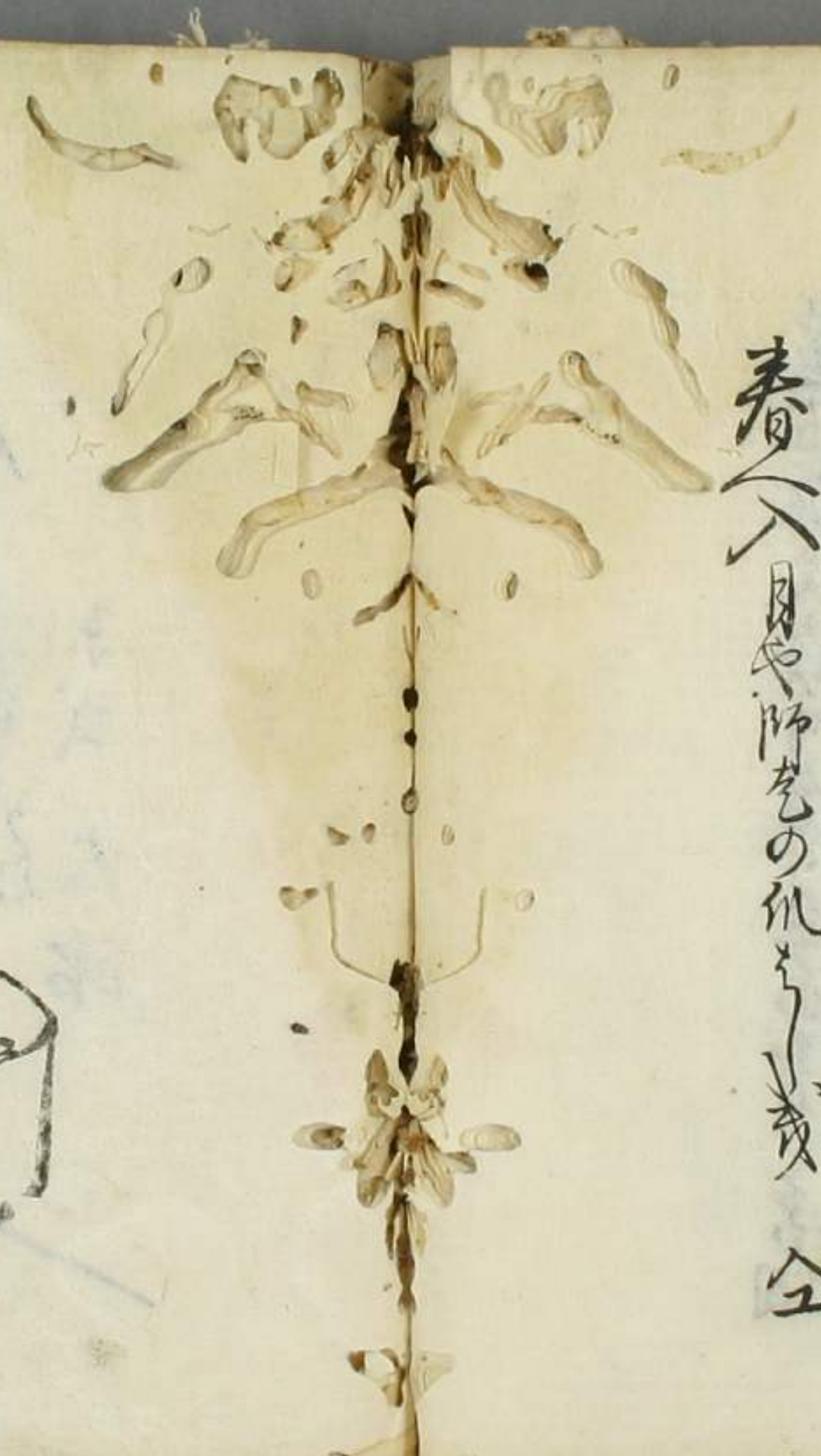
物老ふ

可波要海虎別

たの〜を救ふ世の中
く〜の〜を救ふ世の中
昔分臘月十五日は



春入月と師老の仇と歳全



歳旦

東法

若水や波心 玉の筆 親風

一る〜 借る御か〜 波良

春夜を辺山ふ 踏橋

甲来 翁台

立つて市江戸船渡き 大踏



春無

書上

陶之

水野

叢花

東武大路



名無

東房上

戴之

梅見之

東武 希邑

但馬

建屋

連中

歳旦



桂雲全

梅石

若草のぬあひの人の

あまの記の人

も車樓

澄志

菊人の笑顔のりり初春

凡石翁

文中

福川の程の語を

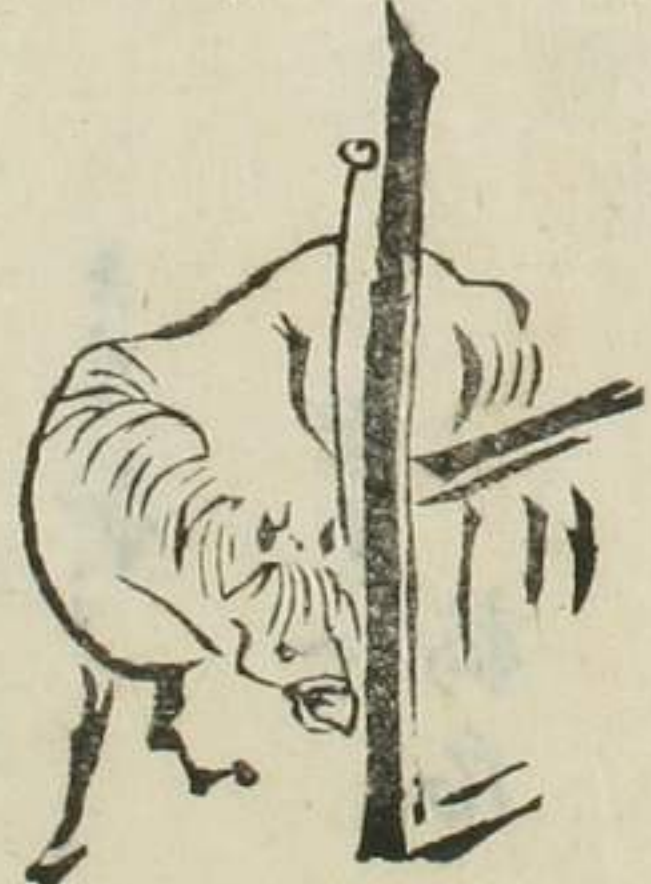
布衣名匠

阿波も一樹の修也

鳥居若長

蘭風

春在暁



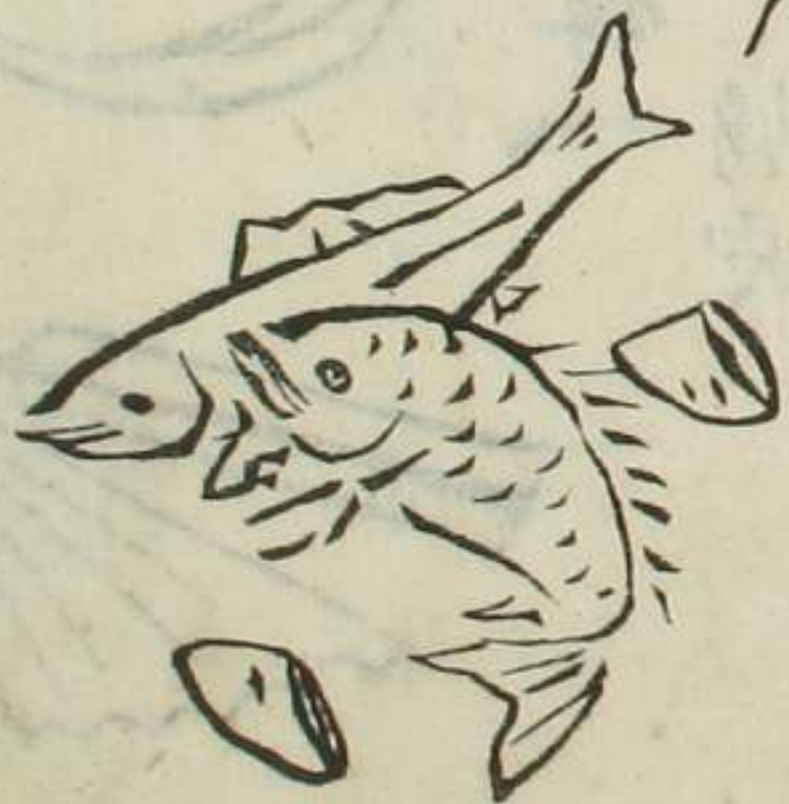
春もさう初春

たけん

年の内

沈志

ち歳



年の瀬の夜と成ふり

文中

百八のうらみとて年をり

梅石

昔年のや年の瀬のうらみは拍子

蘭風

春無



樓

浪心

遊人

青柳

桂中全

梅后

可加德鴻連中

歳旦

静さの中尔

亮尔

夕朝志表

百丈

年尾

全

年の治ちや

恒少向子為よりり

改旦

里舟

風の音も
静かき路あり

日影のしめ

年暮

全

機嫌よく

子のいそぐさ

思見う那

元旦

百事

えりや

梅のよき

人の法

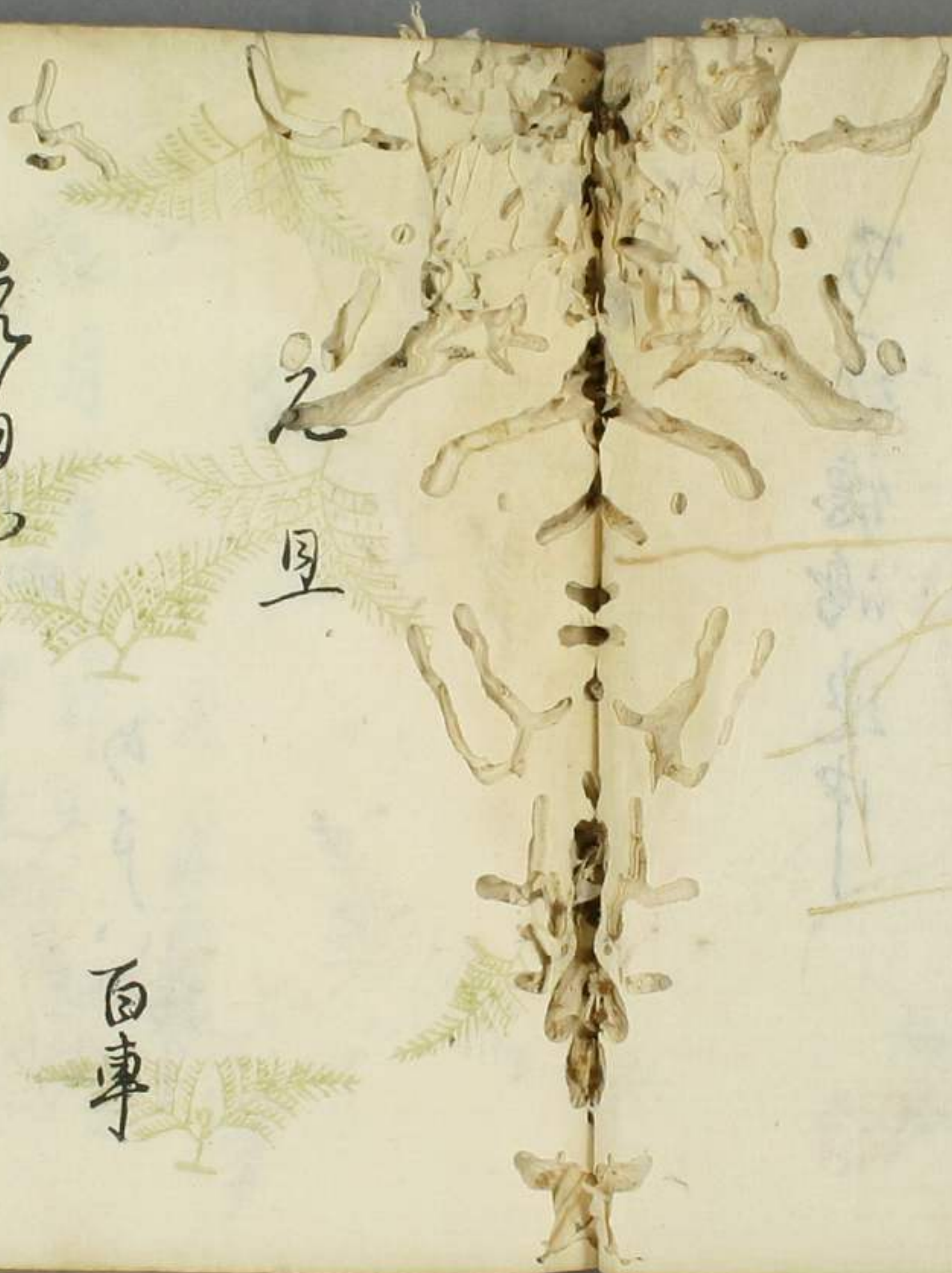
年暮

全

泉のこ

子にきい

師走う那



鳥居

鳥居

正旦

鎌倉亭
物象

芋の後豆食

有りり福喜州

一年掛

全

年の

鶺鴒

尾や

なごり

あさひ事

樂具

好古亭

六月八年徳那の

桃野

師走那

歳末

全

都はちや

嬉拂

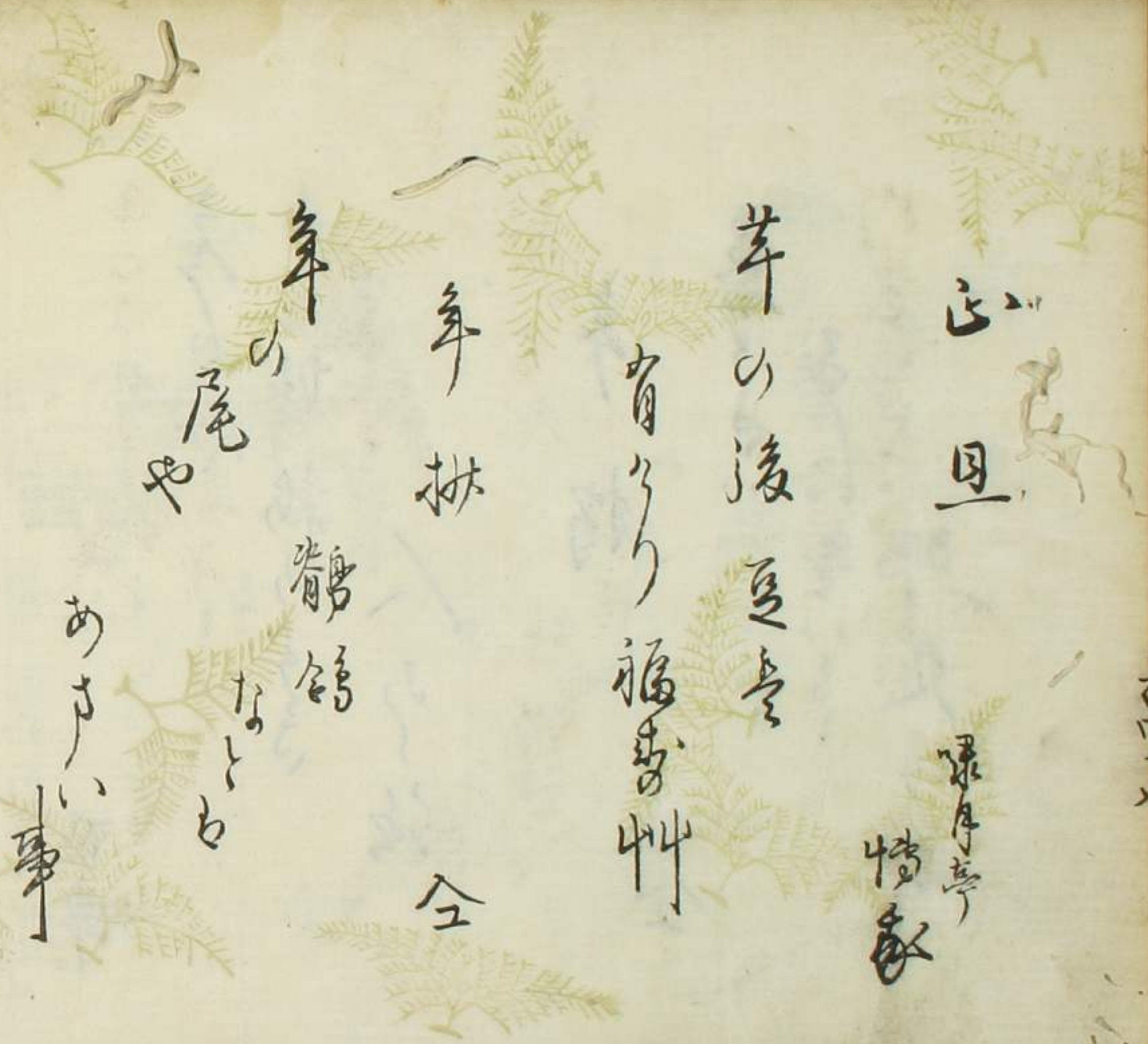
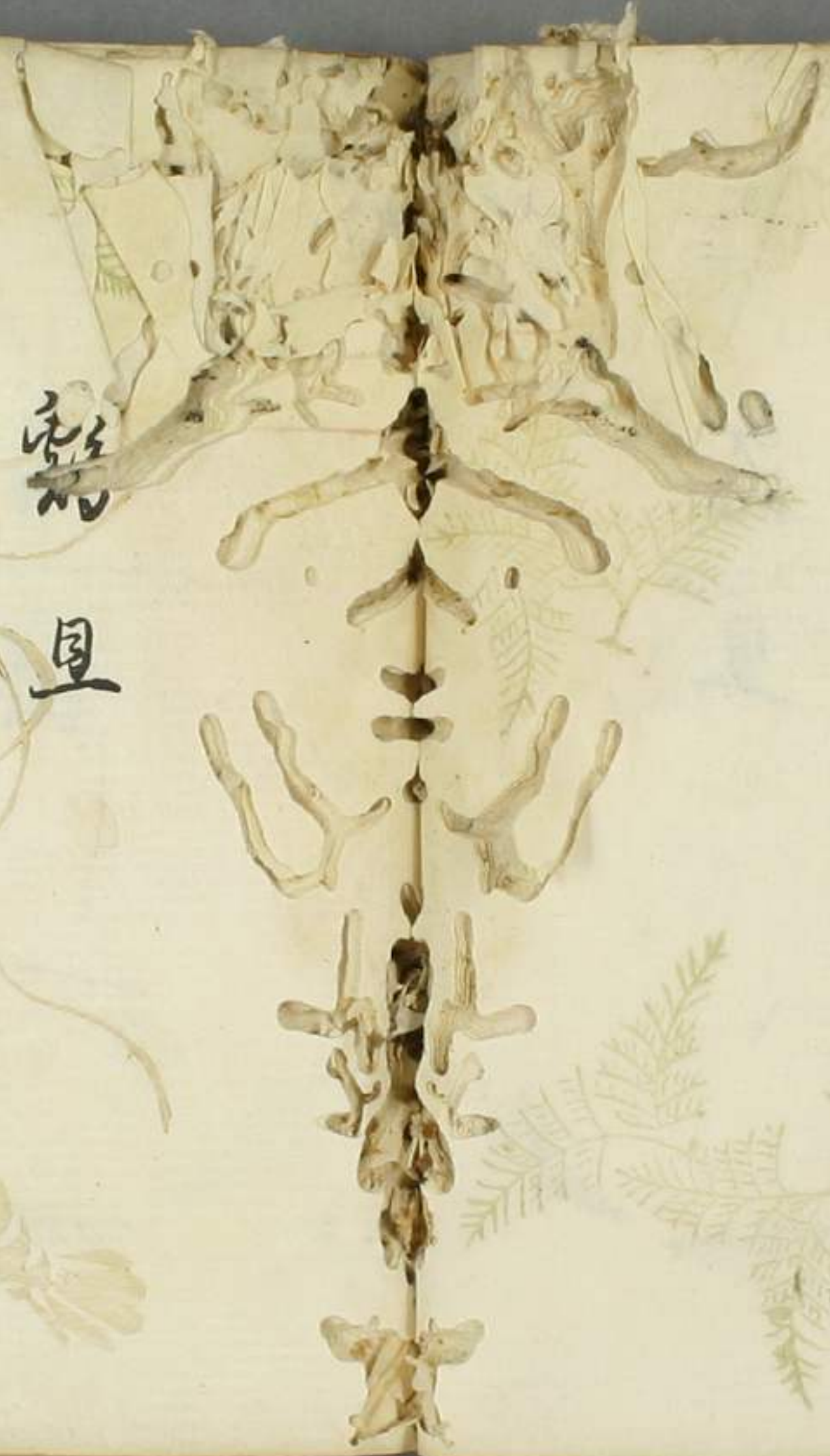
大馬路那

聖節

門堂八束著約の

既の礼

六立



西暦五

辛始

より著と
あし葉始や

金毛

咽々鳥

晩年

全

ゆく年の盡る

去んる

萬葉歌

運
翔

橋升

明々々

清く清く

静かな

年
畑

全

年の
のの掃除う那

年の
のの掃除う那

初陽

川雅

川八声

眠るさ知ぬ

拙那

眠底

今

掃く雫ちやく

たひしくあか

節

大空の底小咲り花の巻

春とふ年の底も初あ

右

潮系

歌仙

笑く中の清物かき石路の花 金毛

氷つくせし風情かき 橋井

もくく一双の眼の影 望舟

雪ふも低くさく 百丈

池の月小灯の落葉と成小なり 西車

葉の露八見ても 林まら 博我

お侍の齡と守る松のあ 桃枝

咽のかいしぬ船の酔さめ 金毛

湯うまのて短く成し肩のあけ 楊舟

嫁入とくふちへのかろり 里舟

細いさくら色ると九十九髪 百丈

髪をよきき一肌は巻甲 百車

月のりを根も涼と草の居 竹家

管と来ると水の令毛 桃堂

君が代のあわり侍らふ若者執り 金毛

唇せつおとくふ 高生 楊舟

あそび眠うとく花さうり 玉丈

巴いあの寝かきうん 百車

移しの被とらまいのゆり 里舟

やうて刺さとも知しに玉草 竹家

何れよとまゆりゆと塩の味 朱堂

星水澄らんと下かり一葉 金毛

戸襖の呼吸と並言紙 楊舟

火陣の中も化ける 里舟

多ねとて花さめと冬の梅 玉丈

扇の袖あまてゆき 里舟

いよいよけふ年とあせりたり 惜か

あゝ異なるといふは 柳 柳煙

碓の氷は雪の月影大工も 金も

う 凡そ船も 木屏は音 柳井

天冠の神もふさふさるる身也 里舟

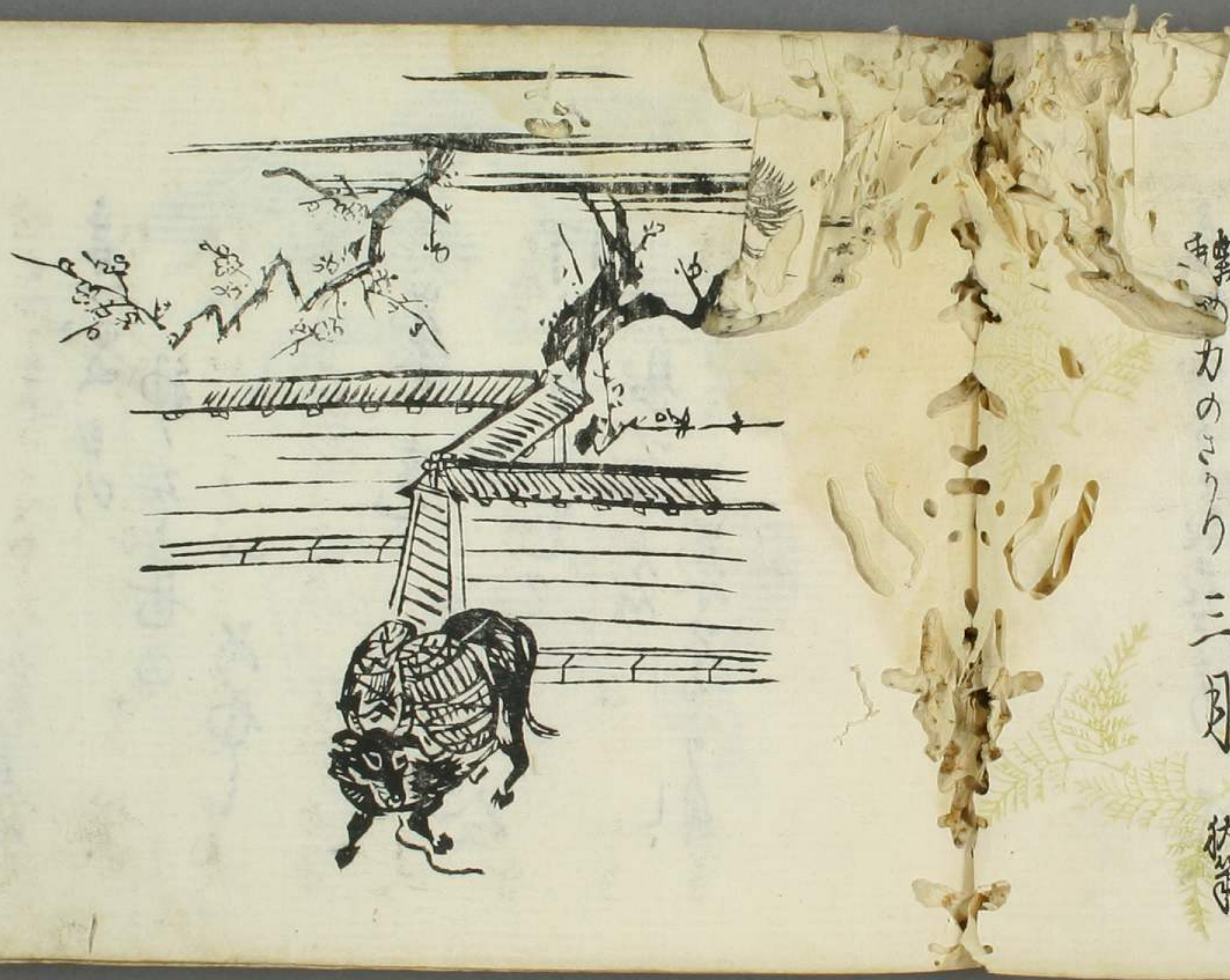
照る日の中もあはれ 百草

造作の船行町へ尻と向う 百丈

落る鳴り 柳の隈も 惜家

さふふふと花を打散る花の浜 桃壁

種力のかうり 三月 枕筆



筑前福岡

歳旦

竹遊亭

貞吟

新し目の

神そ世の

一あや

菜尾

全

何よりも先ッ

息災の

菜尾の



籠前笹栗

三元

元雲即

君恩の有る

長新

神籠

新水の晴也

大書院

景 晚

あまのこいしありそ

池と越て果報の遊覧寶船 其時

去年のあまのこいしありそ
及と踏切りしとき
早と海をゆりしとき
とて今も花の影し
まをりしとき

あまのこいしありそ
都の空と 乃の奥 全

聖 節

松澤の雪の麓や初明 節時

歳 除

あまのこいしありそ
母年の車と留門 全



初 陽

筑あ福忌

万子家

初十

不二を巻

大正也初旭

年 梢

全

石摺りの
去年出たり 曆末

聖節

節也天の工合く象化
戸櫃の



福多事 著の蒼那芳志

辛尾

探 少の事形を知らぬ掃全

海のや 年の足象化



歳且

桃歌軒 綿白

かちちのら 姑一 初日君

年号

全

はるのぬ達者 年の坂

歳旦

予の能播筋より筑陽の
ありて代々
國恩有るは言の松の
齡は生れの世の貴代を
てもかりぬぬふめて
春とて入るなり

昔年形

万頼

とやうりま

おのれめらそ

今朝の裏

年梢

全

あのかげの
梢の
おさめらり



首陽

寶船のまゝあふや国恩
一統

碎月亭

兼尾

皆若さ中と静
静を以

全

歳首

日も

月の

歩もや

松の内



年軸

の

年を

又も今夜は

春迄今未風

歳旦

蓬萊の中なる

出—瓦助かき

兼書

満々ぬるを惜む也

〜の汐の音



漣々々

舟洽



歳旦

あけふの朝
新年の
路かな
東風の
雲



菅公の御社と
隣りて
余香と
言ふ
神も世
除く夜更の梅
其習

卯春のはよりも
梅の花はれは
古用の八重の中
水鏡の心
白やまの心
春は使を
多き運命と
わが心
茶をて賀し



南亭
梅

梅の花はれは

南亭の梅

歳首

全

用心の春や
一休の杖の先

一休

冬 節

竹くさし出でて東方の射物に 友枝

辛 栂

暮冬しの腐つゝや 栂の際 全

三 朝

子も仰て起るゝ子一 世の春 平之

辛 暮

年の矢のめりや 陰夜の門控 全

改 旦

詠中まて右壁の音有り 花の巻 庭狐

辛 暮

山那ハ家竈也とて年ニあり 全

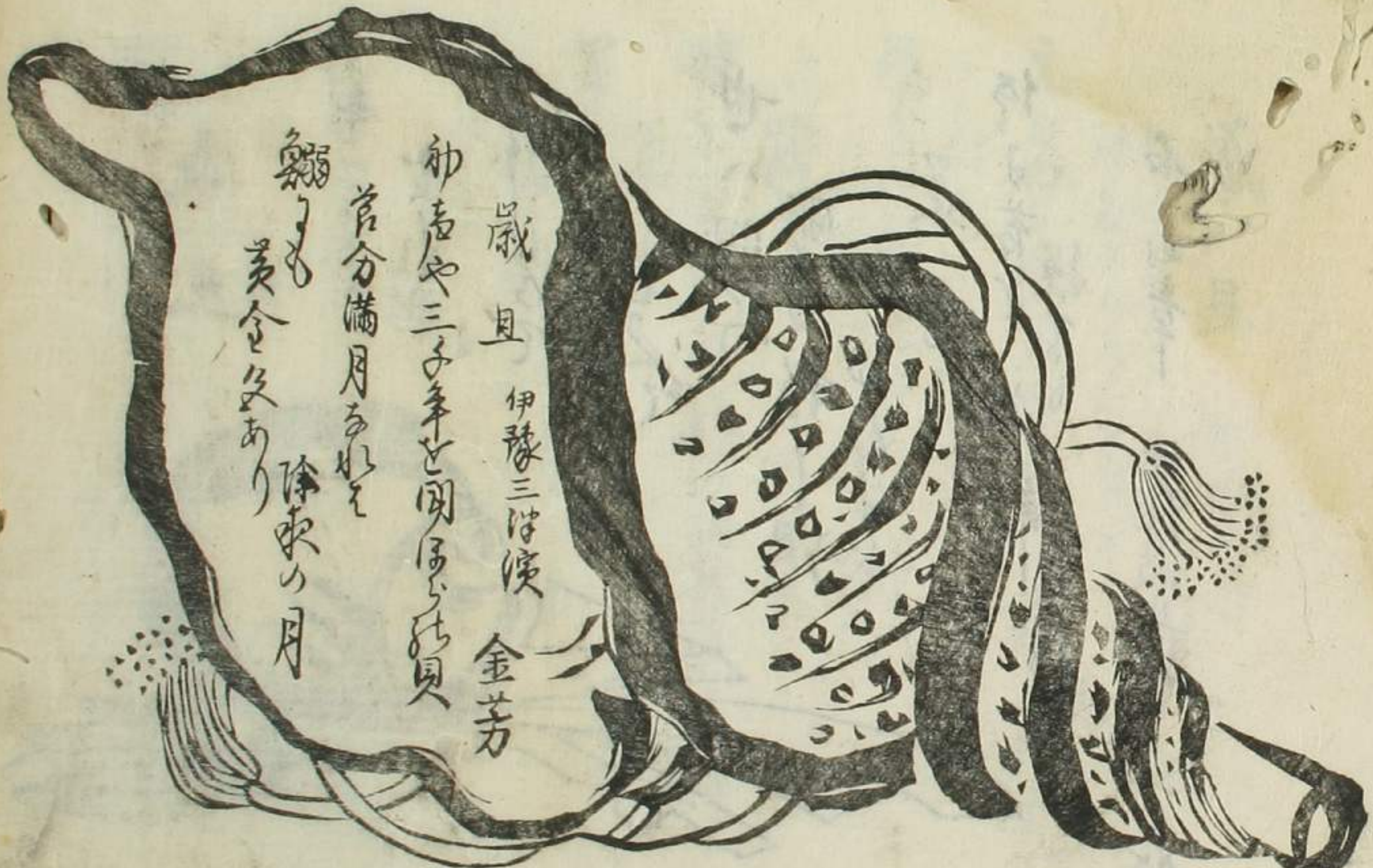
年肉と春 瓶お惜多 先風全

中咲く子思ハなり むめの花 披雲

春 真



西は 雪の垣すり 芽まけ 全



歳 旦

伊豫三は候

金 芳

初吉也三子年と聞屋は貝

首分満月を好む

翫

美全及あり 除夜の月

歳旦

新しき

からけ

けしき

ま

むし

世は旧りの

眼は新し記

初かす

兼号

修は若と温

後ても 年経

右の書

伊藤波止漢

一志



歳旦

後力丸巻

新しき春としりゆふ

信友より大恩を世に

元日も先大恩の宿り

和休

新屋より春と訪て

あうらむ地もかた

全

歳旦

同四吉系

時を待つ閑を朝の福草

香帯

早草

白土より多の子さめ

全

歳旦

同畑新田

今草

新草の心

麦穂全

面白や杖の心のかかり

丹危

古草

麦穂全

金浪の巻も深草

全

元 三 磯 碓 古 河 心 舟 秋

厨 斗 昆 布 の 神 の 著 文 川

菜 晚 多 を 吹 て 梅 見 入 り 極 小 合

常 常 同 中 中 唐 唐 唐

見 上 人 軒 の 大 か さ 立 榭

蔵 且 作 藤 久 治

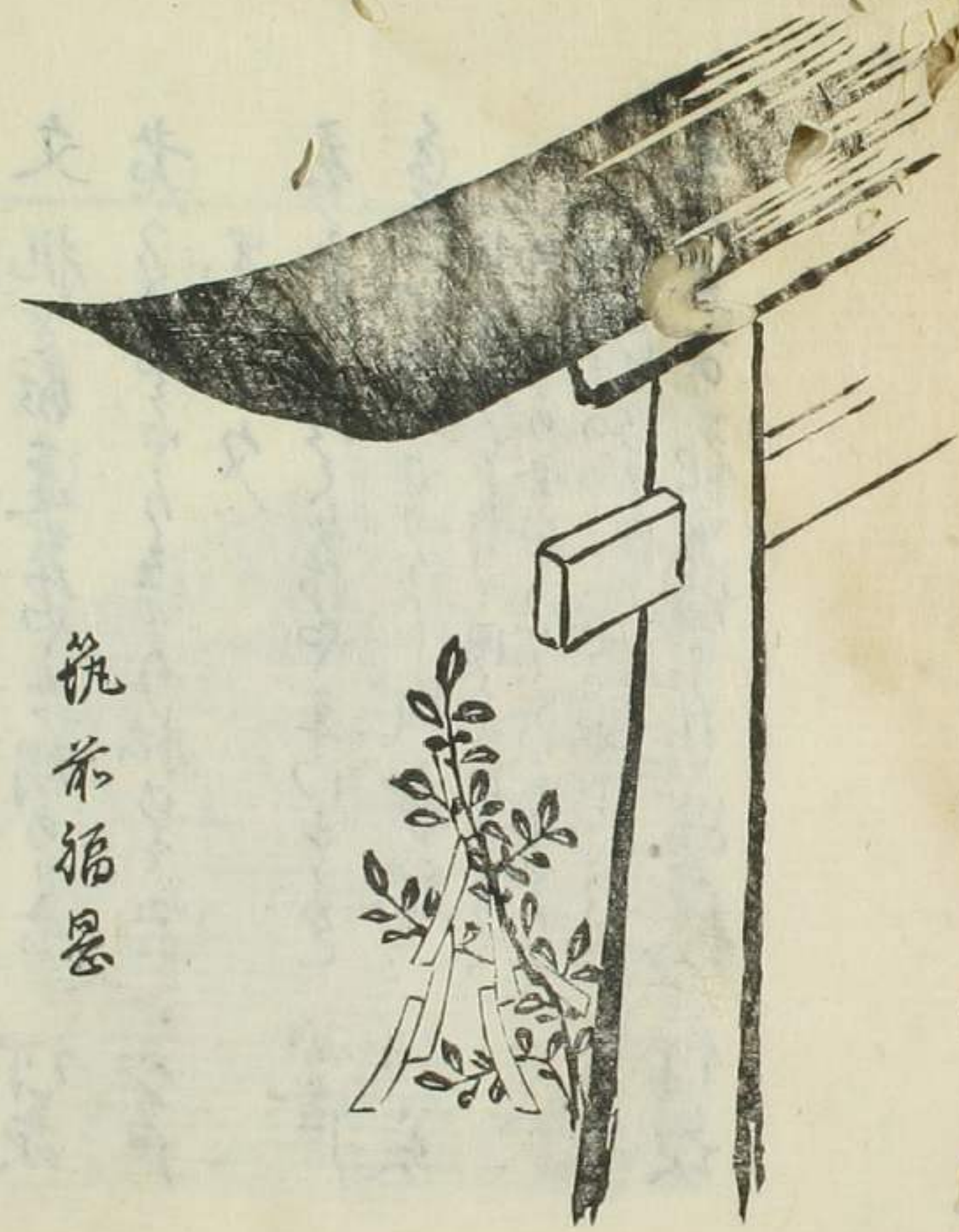
ま け の 菜 や 明 の 菜 互 凡

辛 肉 立 春 同 所 合

歩 兵 合 成 り 出 菜 や 菜 肉 合

常 菜 且 同 所 花 実

朝 旦 一 町 石 や 年 の 板 合



筑 前 福 屋

菜 且 梅 珠

新 風 也 神 田 池 也

作 樹 と 連 ぬ 也

菜 菜 全

年 の 坂 越 也 や

佛 堂 の 乃 也 又

歳旦

桃か竹多 栞授抄

飾ら梅干のる花今朝の花 五蝶

除 夕

神徳の字よりや年の夜雲 全

智 節 任路方三三都山田邑

年くの若くは謝や目のうめ 何龍

除 夜

以年尔国中居よ夏ねとこ 全

歳 旦 伊豫聖地

文 批と歌遠幸やと朝の暮 何羨

老くも心やりまわり松のそ節 如声

歳 夕

吾もて程くを席や年のまき 如声

自際と八海ありしぬ衣配り 何羨

風雲舟を載て圓くの時を告る
端々々の卒もあまこゝろあせり
程心糸のゆるは世の結法さきも
此ゆと語りれとてしつて

玄の 花も訪たり 姥撮 何羨

鈴



内雲の

風指ッ

形りや

おもひあり

山雀人

冠



たきしほ

姑白子

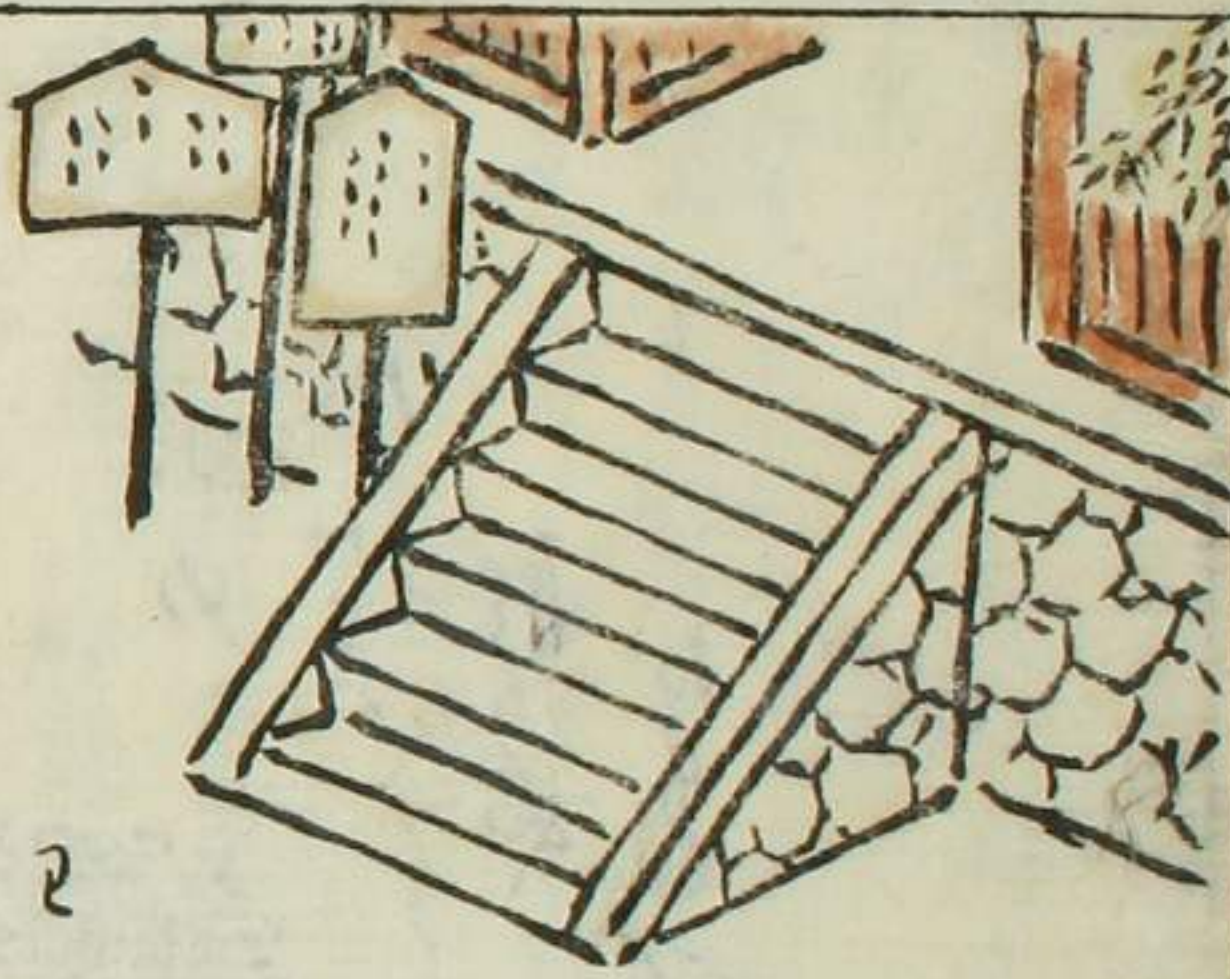
やうし

御前

文

私新

枕燈



も子葉

や果長てけ

帳筒出

李謹



水 猛 小 登 了 足 抽

刀 菊

山 菅



刀

十 九

花 水

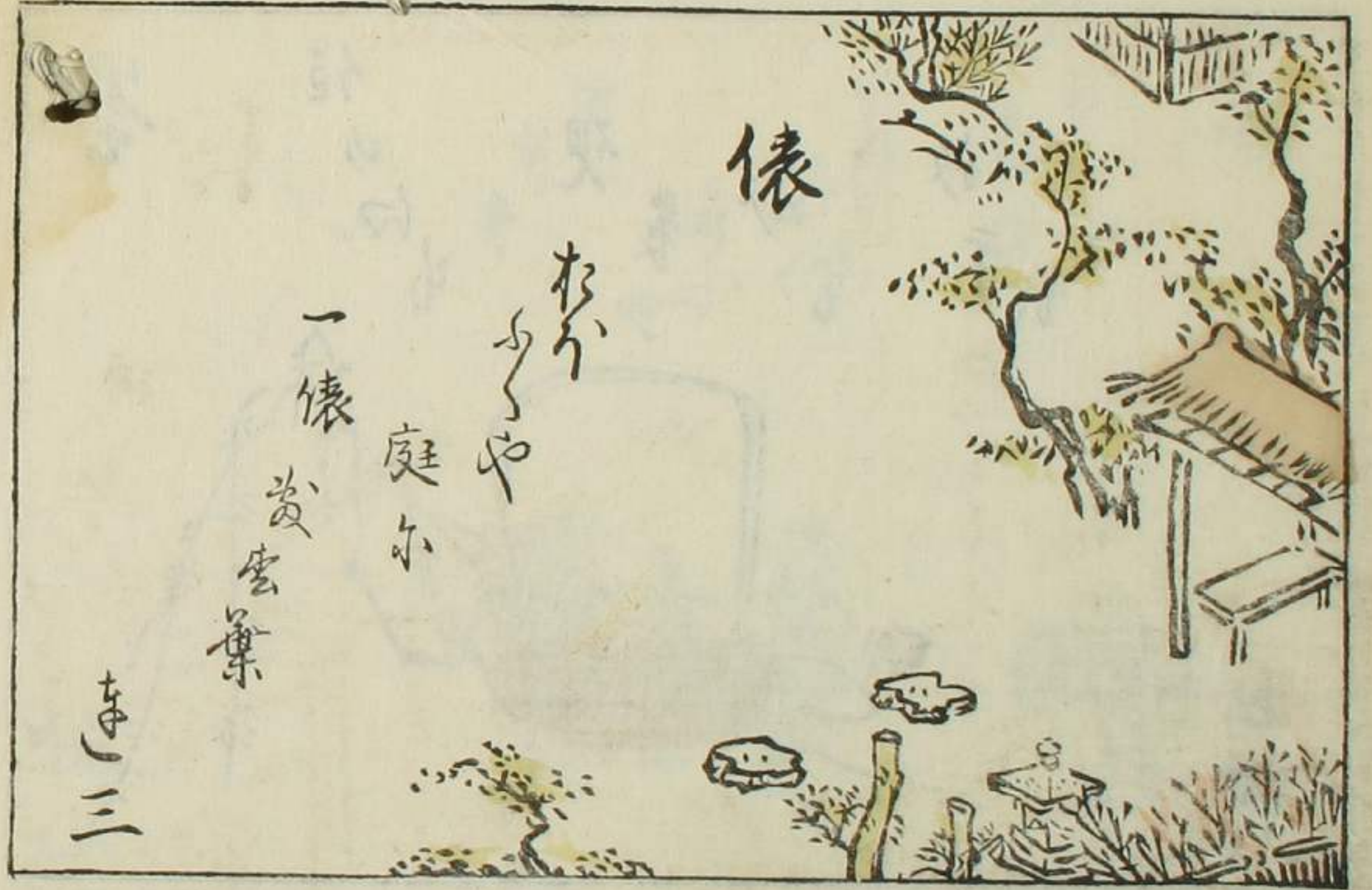
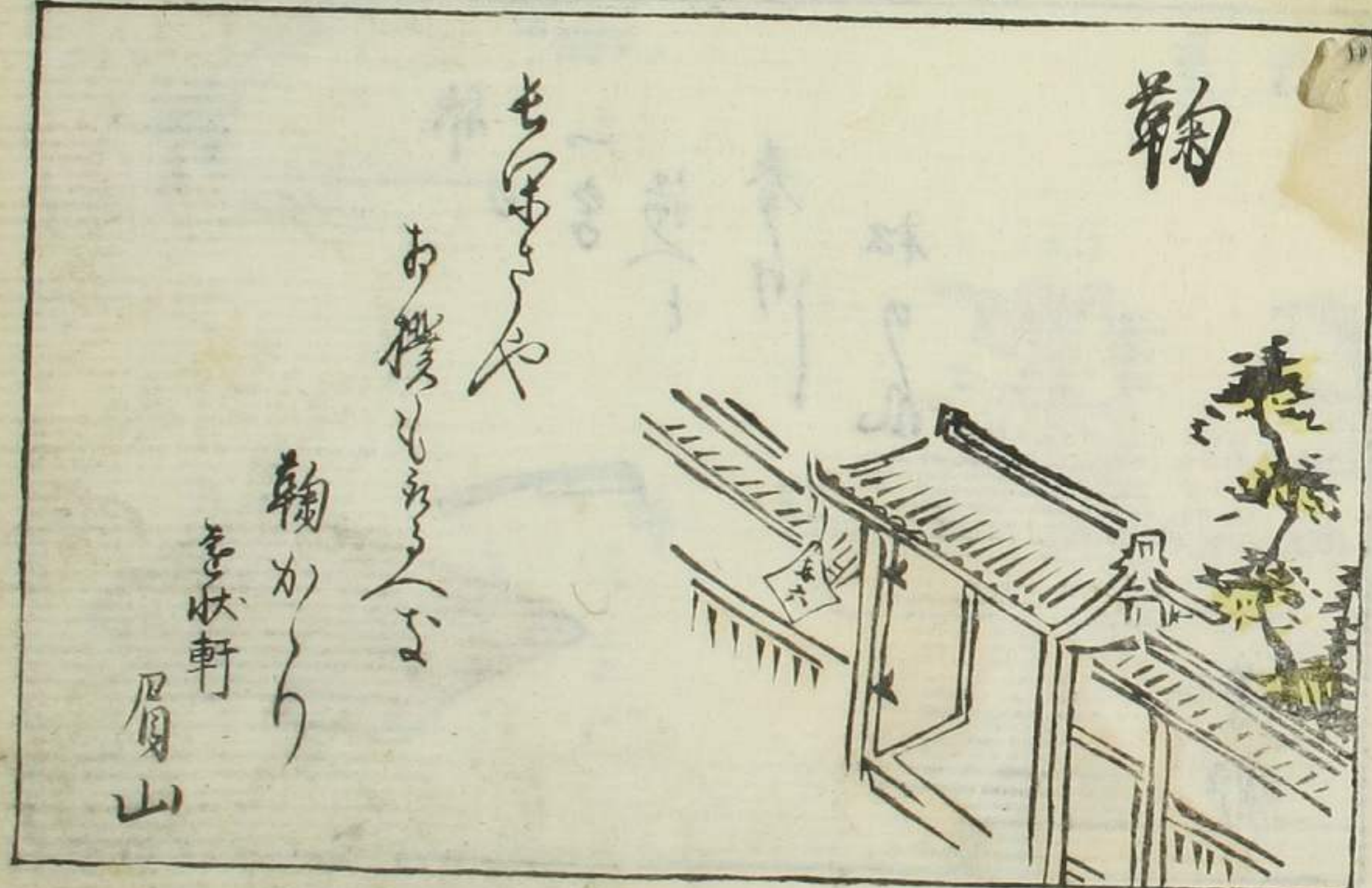
青 水 也

十 二 段

乃 刀

四 十 八 回







主如

時

さうる

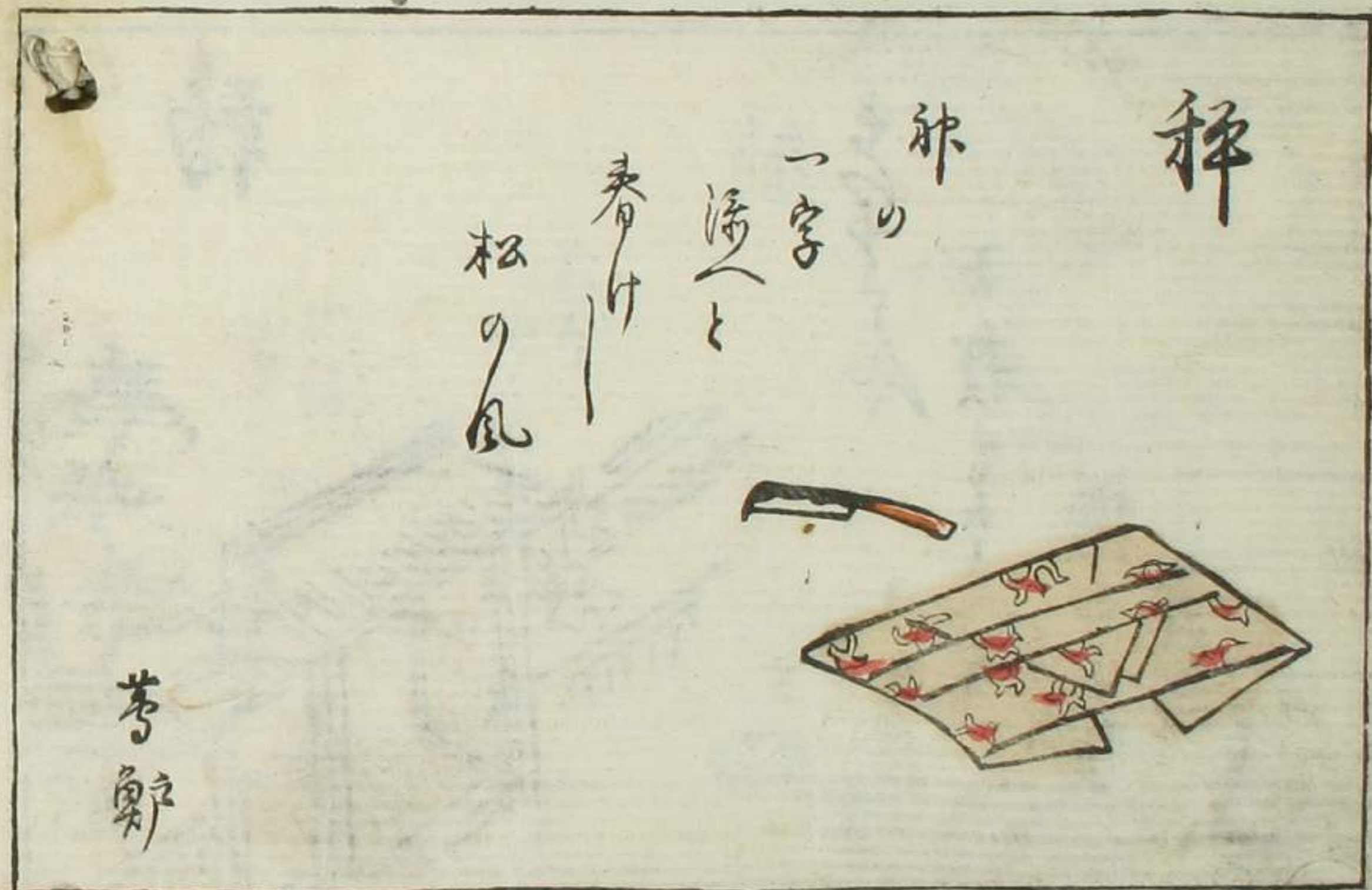
その

外

か

い

張殿



秤

秤

一字

透と

春付

松の風



芍薬



李倓



魯口



拂子

葉中

枝少彦也

白樂天と

龍鶴也

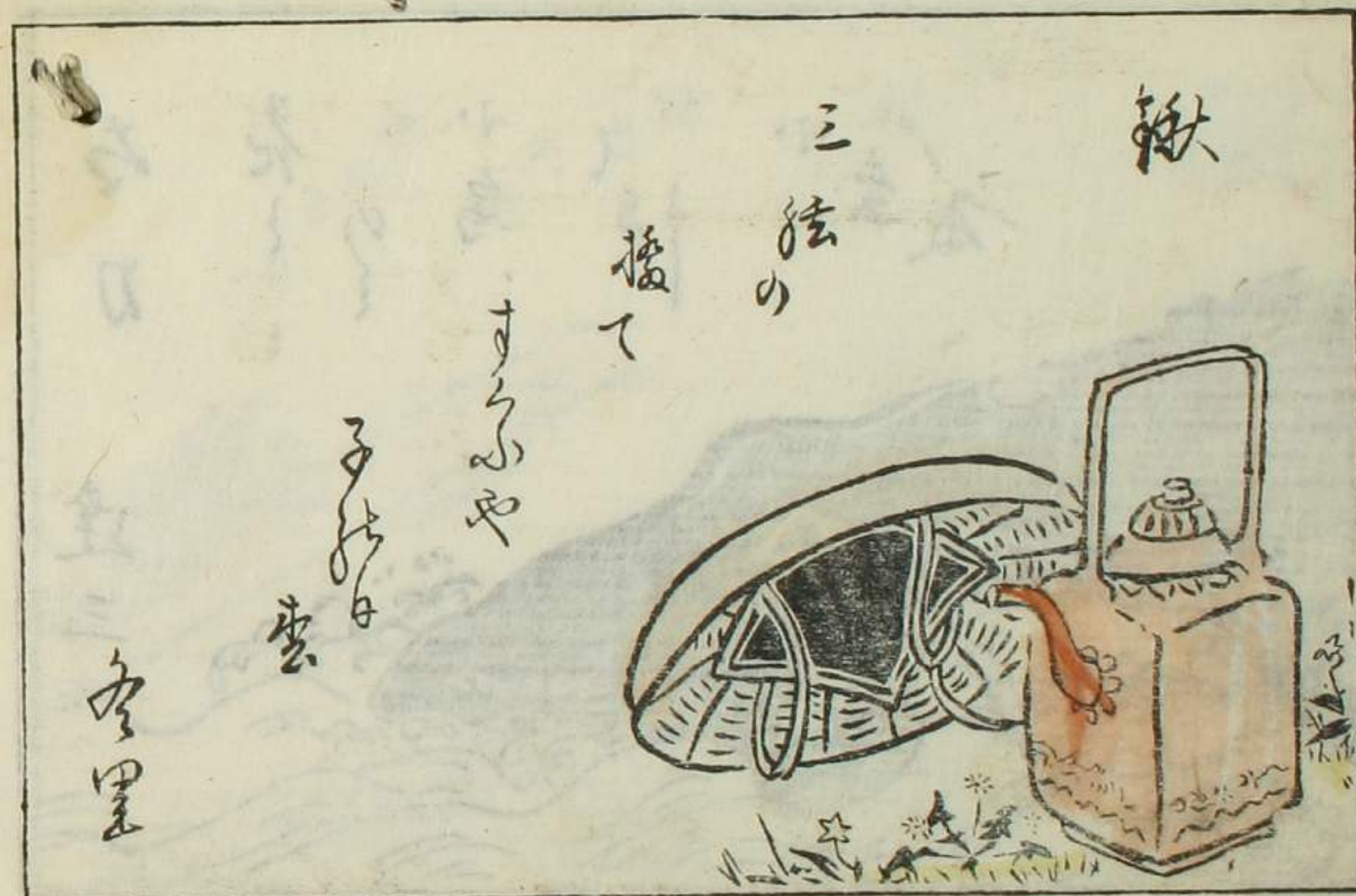
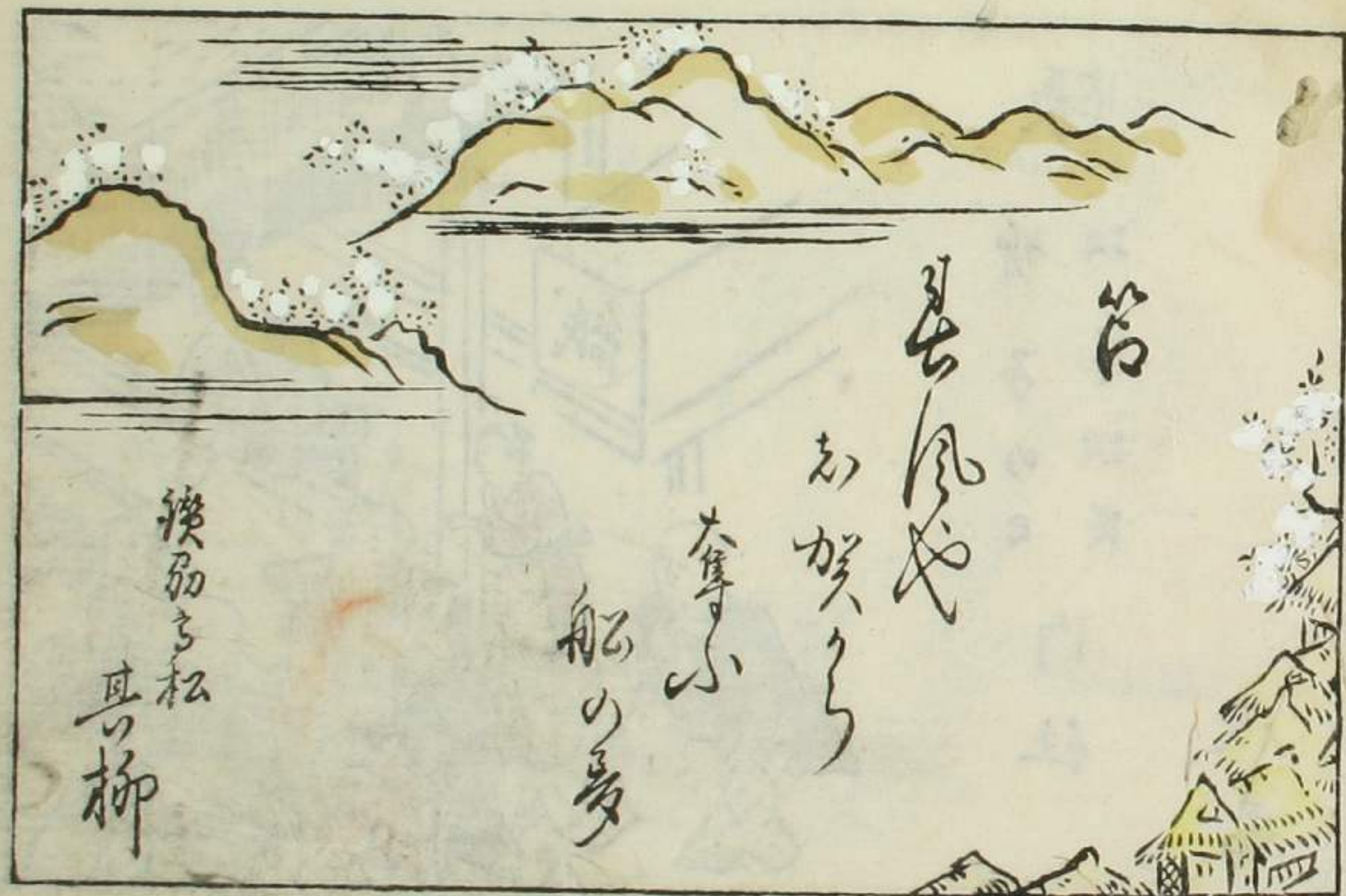


舟
文
心

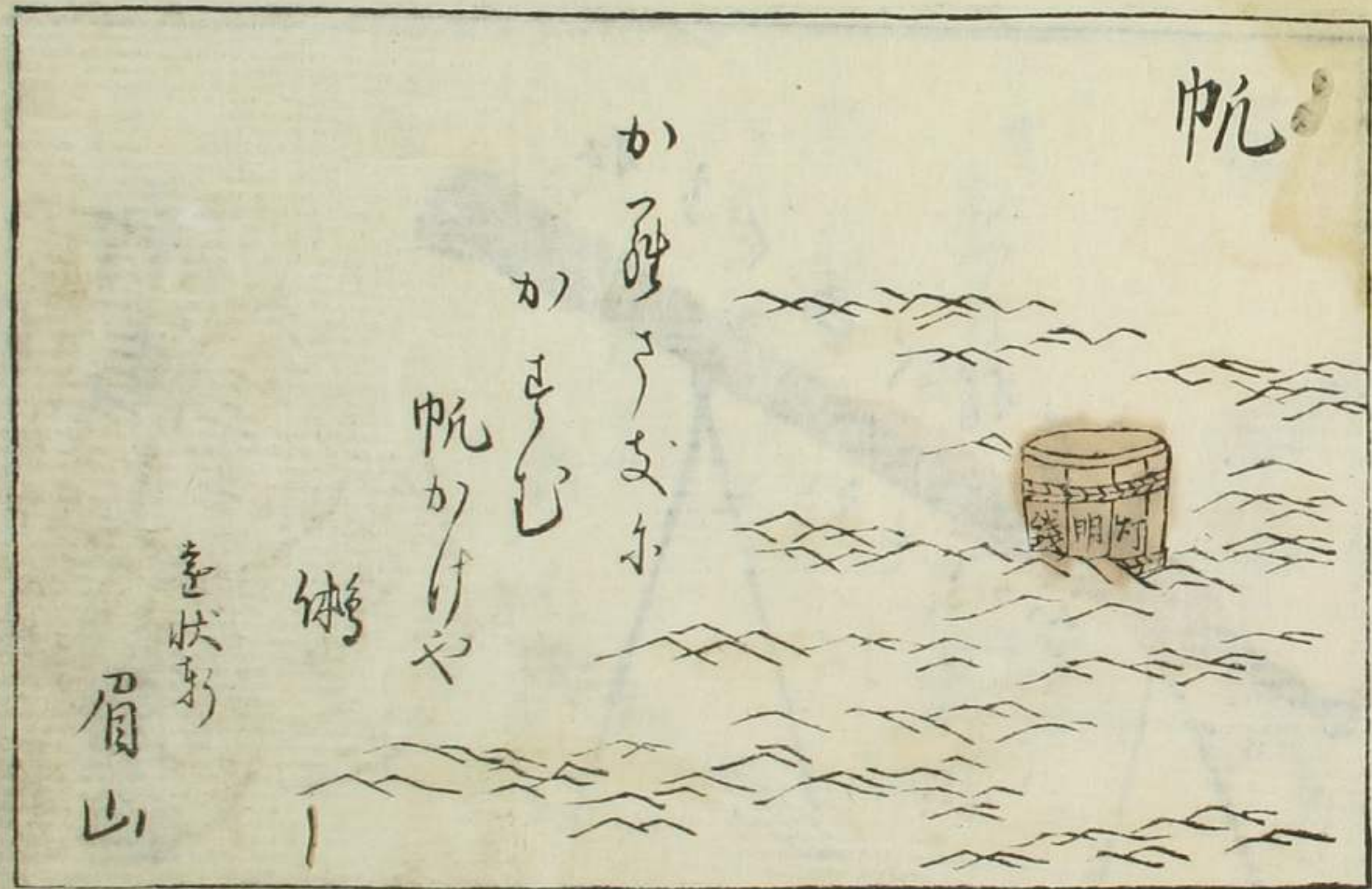
野

舟
心









帆

か
か
か

帆
か
か

帆

意状新

眉山



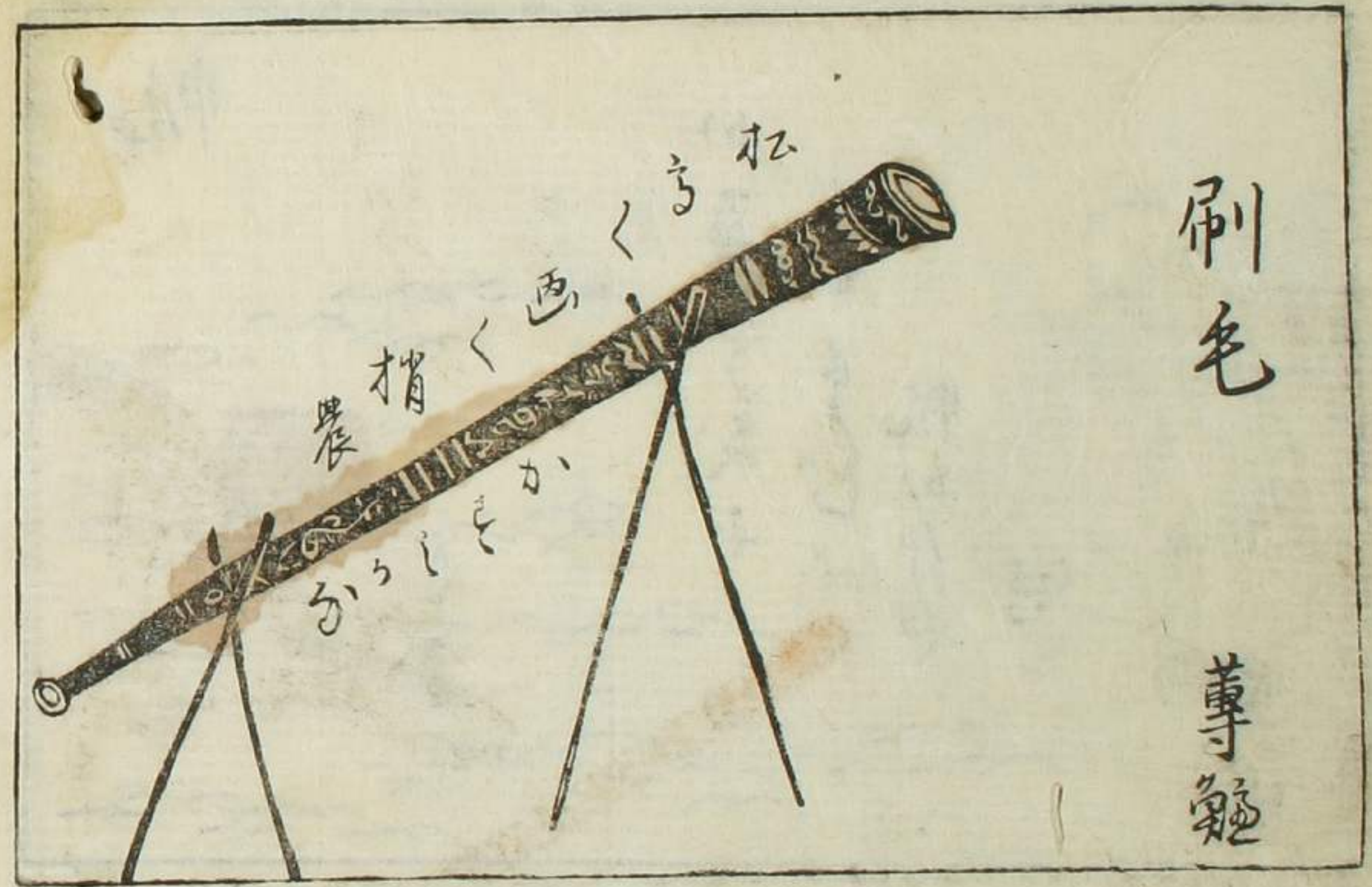
櫃

大
少

拍
拍

虫
虫

糸
上



春乃乃 ちか ち 義 一 虫 義



与 穆



義 一 虫 義 ちか ち

与 穆

伊勢小勢の道に人里のせいも若き

鞍



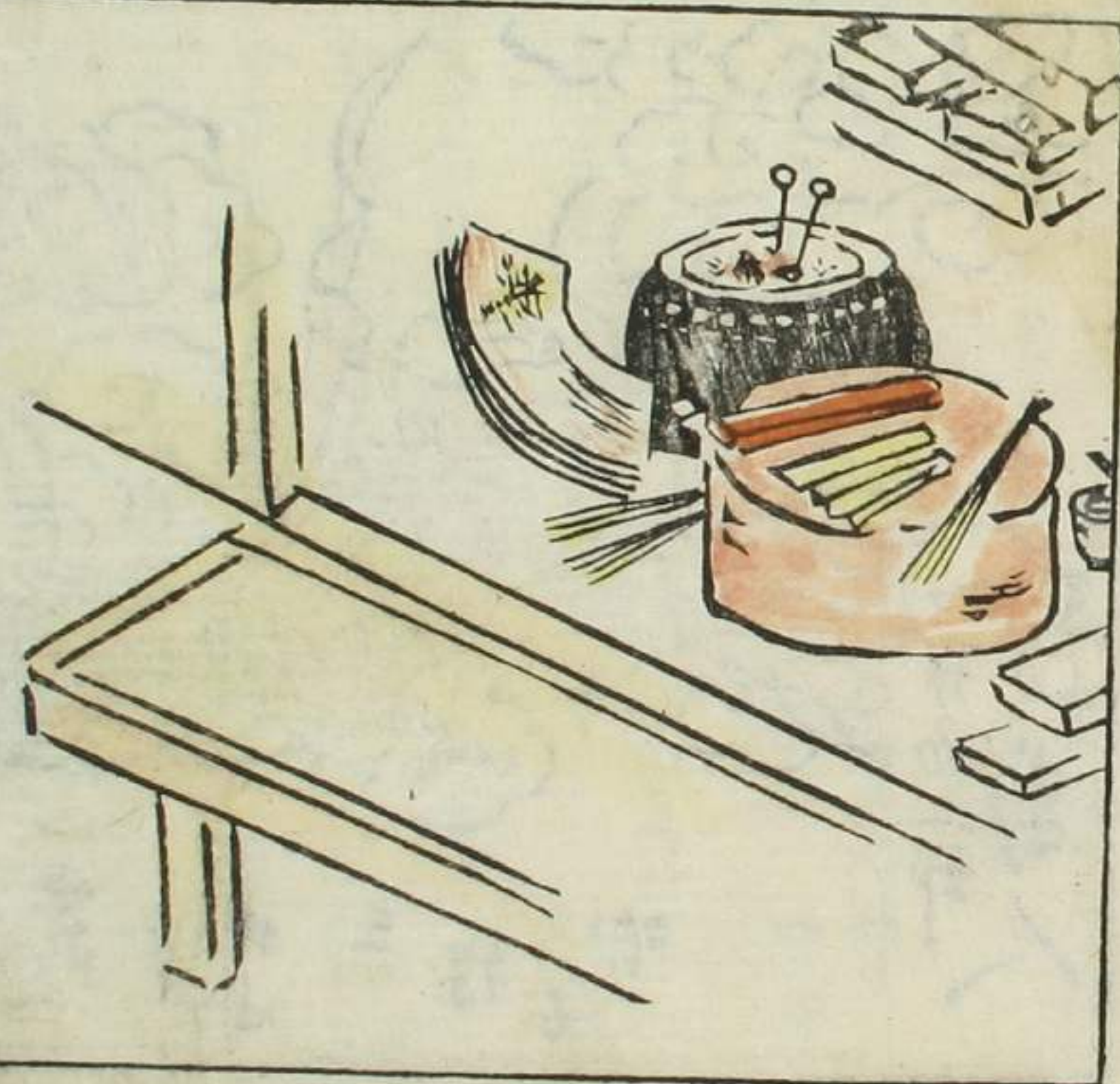
金華

弓

光陰のきこふと
射るり若き心なり

播磨佐保社

竹晴





美十二月天子園土月止
葵の如く之句

智恵ハ小く見ゆる林白 伊勢前部
涙ハ小く見ゆる髪の色 連中

石の音居ふらぬ名 石見河平
清く物不思と思ひ出 駐車

結ひふかり知る 菅原同所
洞川そのあふハ草のあや 桂山

夕なりもあふ 五月の雲は波は徳
隙は結ハかせるあやし 連中

赤院有 力あり思ふ 伊藤三河渡
巾かき切つて袍陰ふ 自蝶

けりし時もかきハせ 弟部
夏はもて秋を出し 初葉の 鶴船

白文のてあをなる 水車
和石

争や水も名きてあしあ 赤部 有隣

たろりのあて見あふ養 入おと尺のあふ言は同 赤部

あまを見あふる春の唐 他種てりてあし入唐の信 丹後文津 赤部

あまも花んの勝もむらあ ちのまれ 目もあしあし 石見小原 西条

あまのあて見あふる春の唐 古々とあしあし 丹後久美 香字

あまも花んの勝もむらあ 竹吹ゆけそ清くあしあ 赤部 紙隔

あまのあて見あふる春の唐 白粉うらもあしあし 但馬彦 梅后

あまも花んの勝もむらあ ちのまれのあしあし 赤部 国承

三章

庚十二月分子国土月と 葵の加下之句

あまのあて見あふる春の唐 赤部 伊勢高部 連中

あまも花んの勝もむらあ 石のあて見あふる春の唐 石見赤部 駐車

あまのあて見あふる春の唐 赤部 同所 榎山

あまも花んの勝もむらあ ちのまれのあしあし 赤部 連中

あまのあて見あふる春の唐 赤部 自蝶

あまも花んの勝もむらあ ちのまれのあしあし 赤部 輪船

あまのあて見あふる春の唐 赤部 和石

争や水もるまでありあ 京都 有隣

たうりの市て見せふ養 入おと尺のあふ言は日 中

志を文と見せふる春の唐 他種してあふ唐の信 丹後三津 中

あふれ目も神も片とし 石見小浜 西奇

あふれ目も神も片とし 古々とあふ神のあふ言 丹後久美 香字

竹吹ゆけそ清くそ風 京都 紙隔

二條を世ふ更り あふ言のあふ 梅后

あふれ目も神も片とし あふ言のあふ言のあふ言 田家



あふれ目も神も片とし あふ言のあふ言のあふ言 梅后

川の流のあふ言 あふ言のあふ言のあふ言 連中

あふれ目も神も片とし あふ言のあふ言のあふ言 山部

あふれ目も神も片とし あふ言のあふ言のあふ言 全

あふれ目も神も片とし あふ言のあふ言のあふ言 呂風

あふれ目も神も片とし あふ言のあふ言のあふ言 包々

あふれ目も神も片とし あふ言のあふ言のあふ言 連中

あふれ目も神も片とし あふ言のあふ言のあふ言 桂宇

免らまの酒ゆくも 可波徳信
家神よつらくも亦能走り 百丈

痛くゆく指のくも信 赤部
碧と因て運楫の更付ぬん 自玉

赤部の眼出らるる若布を 可波徳信
廿九日ハカおの面 赤部

言葉の角ハ追くよ色 石見河井
名月あはれは娘いの事と好 蘭渚

英人よりあそぶあらん長 伊勢神戶
髪結めて出る娘ハ午時と知 厄々

有るけの浪を拒絶たてて 伊賀名流
枝とくくせとくくく海 連中

その声よりりする 音の色 赤部
天地のるの曲尺ハ舞盤 柳水

おのくは事おはれは武蔵切 石見山
氷の上よもももす舞火 柳枝

包のくも金おろるる娘ハ 伊勢神戶
おろるる帯ハゆらゆら 三枝

牛の力も弱ら秋ハ 赤部
層化能極り帯ハ成りくり 魯々

新神の尻の若くはひ付 赤部
漱潤して雲又流るる 梅ト

月ハ一湖ののせりて 但る廣岩
雪よよき娘かく年よせり 烏白

名酒の酔はるる 伊勢神戶
投入ハ獨拵替て 楚居

善毛ハ風のリリハ 初秋 同西
子の付く布袋の形ハ 風笛

十日もあよ出陣の姿 赤部
大名も市の水と多向く 赤部

目の聲はよるハ 橋つら 赤部
常夜月のあるる 破の蘭 五瑞

けしよ洞子うー物あゝ多都
流る感陽言の遠入口 窪人

月の影りるるまふ書 伊勢津清水
水の酒へくと深出ス都あらん 連中

一掃の影い感るふ多しあり同不
あゝるあ海へ入一見代 五流

起くる夜出で乃々青竹ゆあむ
首の傾きかりる下の白 松耕

七月の影いその映り限り同
人胸ふおつらとせしるあまの海 厚刀

さうあて十日もたは疑れ同
吳貝のはるる青麻一丈 全

葉を捲くはの眼を方うさうさ同
水枝けーのてあまーゆ 松耕

磨りまゝ流る懐て都へ俵 同
海舟入して都抛の下 紙隔

まゆらうふおたまたは 伊勢津清水

三流と都の葉とあしとや 連中

船の伸るは船とゆと比 石見市山
あゝるあま見へ山も都一さ 連中

拾てまぐもゆりまゝる 伊勢津清水
葉のあゝるもゆり大文字 花心

ま葉の蓋子花うらかり物多都
一生胎とたてをあや 輪 儿玉

白あてあまをわけ丸を根 伊勢津清水
あゝる借りあゝるあゝる 連中

あゝるあゝるあゝるあゝる 同不
庚りまゝあゝるあゝる 花御

あゝるあゝるあゝるあゝる 同不
あゝるあゝるあゝるあゝる 同不

あゝるあゝるあゝるあゝる 同不
あゝるあゝるあゝるあゝる 同不

あゝるあゝるあゝるあゝる 同不
あゝるあゝるあゝるあゝる 同不

あゝるあゝるあゝるあゝる 同不
あゝるあゝるあゝるあゝる 同不

氏多し鳥帽をぬかず一和 衣の堅固
留置まゝにけらせらるる術 可庸

船底の肌ハ海地のやうにして 石見河卒
異なる清き水より月 志能

世の中を暮らす海をよきとす 近江大津
知の跡を遺るやけく坂を白大津

花曇る夜中ふゆりも朧月 巨江

右五十九章 夢未目し加下

真のま出でてそひ切る意 藤扇三津淡
弟少く時ふあらん 髪女の癖 左車

夢の中へ山へて是より舟山 伊賀名張
ふ 中ら底と掘り口上 連中

冬は白鳥画てまぐ山向も 洛西
日 南のきくふ川下の雲 連中

浮船にて二夏の船も初受候 糸
川とくくふるまゝあふまゝの舟 有隣

らく書てもよと上は唯礼 舟後三津
こりこりこりこりこりこり 世中

舟雲帯して古跡のいりれ同課せ 伊賀名張
先 堀忠とすの 他例 連中

いこのかりを小宮の茶もまて 舟後冬火
若きハ 老と杖もする 旅 香字

伽らるるはまの様の揺りより 鏡か福忌
風鈴の紙も 暑も氷りりり 披雲

くろんんのも事も侍るに 舟後三津
意の言葉ハ 那 丸折 連中

若は月夜物とすの 舟の舟 伊賀名張
あやめの白い葉をてがら知る 連中

神のまゝハ 玉佛も 伊藤川之に
大青て 呼で 舟も 舟の白髪 連中

減る程乃も延る梅下石品小糸
山師の自由己り天定也 西奇

聖巻彈きして善きうす者京
豆弱の連考よるゆるまゆ山 船

船中 船中 船中
船中 船中 船中

三人 三人 三人
三人 三人 三人

一日 一日 一日
一日 一日 一日

一 一 一
一 一 一

短く 短く 短く
短く 短く 短く

世に 世に 世に
世に 世に 世に

少く 少く 少く
少く 少く 少く

喜 喜 喜
喜 喜 喜

世に 世に 世に
世に 世に 世に

三 三 三
三 三 三

少 少 少
少 少 少

梅 梅 梅
梅 梅 梅

親 親 親
親 親 親

加 加 加
加 加 加

加 加 加
加 加 加

加 加 加
加 加 加

白雲を煙に仲人仕漂せし 石に中山
詩はほめしをを能く笑ひし 磐石

たのみのあぢの浦を渡る石の太玉
廿日ものあぢの浦を渡る石の太玉 連中

女里をとりつづるお徳の巻 伊藤今治
お徳の巻をとりつづるお徳の巻 連中

よの男より母より罪よりよ 京
徳をとりつづるお徳の巻 連中

石三十一章 夢に放先付掛かす
酔ひ醒めてをを知らず 戸
老いも花いぢりる室の梅 船

花いぢりる室の梅 伊勢神戸
徳の巻をとりつづるお徳の巻 危脚

中より隣裏より 塚 石加佐治
夢に放先付掛かす 連中

揚子江を渡る舟の雅し 石加佐治
舟の雅しを渡る舟の雅し 連中

舟の雅しを渡る舟の雅し 伊勢神戸
舟の雅しを渡る舟の雅し 連中

舟の雅しを渡る舟の雅し 伊勢神戸
舟の雅しを渡る舟の雅し 連中

舟の雅しを渡る舟の雅し 伊勢神戸
舟の雅しを渡る舟の雅し 連中

舟の雅しを渡る舟の雅し 伊勢神戸
舟の雅しを渡る舟の雅し 連中

舟の雅しを渡る舟の雅し 伊勢神戸
舟の雅しを渡る舟の雅し 連中

舟の雅しを渡る舟の雅し 伊勢神戸
舟の雅しを渡る舟の雅し 連中

舟の雅しを渡る舟の雅し 伊勢神戸
舟の雅しを渡る舟の雅し 連中

舟の雅しを渡る舟の雅し 伊勢神戸
舟の雅しを渡る舟の雅し 連中

舟の雅しを渡る舟の雅し 伊勢神戸
舟の雅しを渡る舟の雅し 連中

あふんたる明の中を登り持
京
あふんたる威陽宮のうらまへ
岸公

世をささぐりしめすは
日

つと不刷毛をかきつて
富士を産む
日
松耕

兼用たけては未だやめし
日

ささくはかき負かすりし
魯口

五城の腰の結わんさうし町

少神の跡も老いありしが
今

張り臂のつらさるる揃息
京

うらあふんたるは是れぬを路中
奥乙

右五章使車之序

歌仙

遠き事と白く
山守小

軽舟舟獨吟

五十点
ゆづ津橋のちのえ
やちの湖

キヌ
師小
道
鶴
毎

五十
ちのち
波
ち
ち

四十
同
名
酒
屋
も

百
春
旗
り
居
布
ふ
の
月

音
文
ま
か
ぬ
と

ウ

百 秋 暗 渡りの後 船 ちん 先

百 君 あり ちんめく 文 子 意

金 形 たる ちん ちん 成り

百 書 ちん ちん 味 ちん 意

百 ちん ちん ちん ちん 意

三 形 ちん ちん ちん 意

百 札 浦 ちん ちん ちん 意

七 五 勢 祝 倭 續 ちん 神 意

五 十 方 唐 ちん 角 ちん 意

百 五 鬼 花 ちん 小 指 意

百 十 月 ちん ちん ちん 意

百 有 ちん ちん ちん 意

百 新 揚 ちん ちん ちん 意

七 十 片 ちん ちん ちん 意

百 雲 漲 ちん ちん ちん 意

三 十 山 師 ちん ちん 意

百 乃 ちん ちん ちん 意

三 十 ちん ちん ちん 意

百 ちん ちん ちん 意

百 ちん ちん ちん 意

| | | | | | | | | |
|----|----|---|-----|----|----|----|----|----|
| 五十 | 五十 | 百 | 七十五 | 五十 | 五十 | 三十 | 十五 | 五十 |
| 竹 | 小 | 御 | 外 | 乳 | 川 | 回 | 本 | 四 |
| 飯 | 島 | 口 | 半 | 日 | 階 | 胸 | つ | 胸 |
| | | よ | 徳 | 母 | 子 | の | く | 向 |
| | | て | 方 | あ | く | 向 | 保 | の |
| | | 入 | ま | あ | く | の | か | 白 |
| | | 長 | ま | あ | く | の | け | 日 |
| | | て | そ | あ | く | の | た | と |
| | | 生 | ご | あ | く | の | た | 庭 |
| | | む | と | あ | く | の | た | 庭 |
| | | か | と | あ | く | の | た | 庭 |
| | | た | と | あ | く | の | た | 庭 |
| | | た | と | あ | く | の | た | 庭 |



吾の... 吾の... 吾の... 吾の...
 吾の... 吾の... 吾の... 吾の...
 吾の... 吾の... 吾の... 吾の...
 吾の... 吾の... 吾の... 吾の...
 吾の... 吾の... 吾の... 吾の...
 吾の... 吾の... 吾の... 吾の...
 吾の... 吾の... 吾の... 吾の...
 吾の... 吾の... 吾の... 吾の...



香齋奉納

此花の亦ふ 白ひ那 風状
花なき

五尾

彫工 六角通柳馬場西へ向 用村平三郎

書林 二條通柳馬場東へ向 野田友八

同 堀田二條上へ向 河原屋次郎

